男女貞潔之理想　會長 島田三郎

公娼廢止之主張　副會長 安部磯雄

6－93

# 廓清

明治四十四年八月一日創刊
大正七年十一月一日第三種郵便物認可
（大正十年四月一日印刷）
（大正十年四月一日發行）
（毎月一回十日發行）

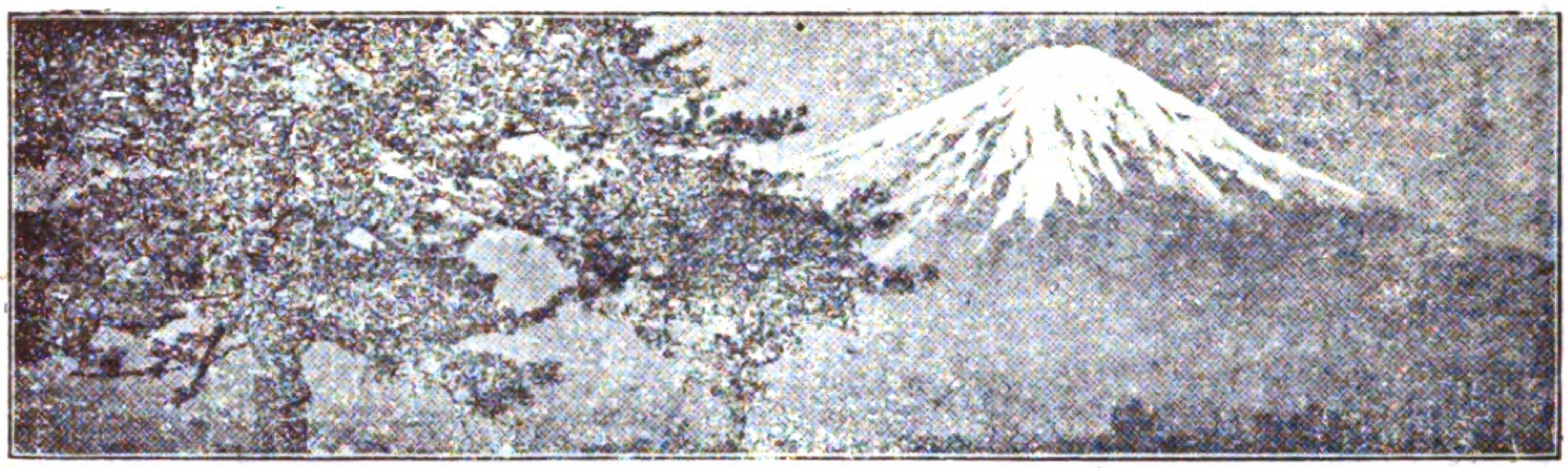
第十一卷第三號

□浮世繪の寫眞化……足羽清美
□墮落暗黑の社會……廓清會長 島田三郎
□上流家庭の腐敗……廓清會副會長 早大教授 安部磯雄
□婦人の自覺を促す……廓清會評議員 成女高女校長 宮田脩
□人間改造婚姻改造　法學博士 山脇玄
□議會に就いて……田川大吉郎
□勞働運動と人生問題　辯護士 布施辰治
□理想と生活苦（四）……足羽清美
□思想と言論の自由……辯護士 清瀨一郎
□上海の廢娼運動と邦人　上海 小原榮次郎
□謎の吉原日記……前某醫院看護婦 田口和子
□能代支部の奮鬪……淺野吉十郎
□惡業の上に詐欺……木藤冷劍
□編輯の後……圭英生

東京　廓清會本部發行

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY



# 浮世繪の寫眞化

廢物を賞玩して喜んで居るやうな老人達からは白眼視され、古物商人からは失業問題を眞向に驕して逆襲されるかも知れないが、浮世繪ぐらい醜の醜なるものはない。若し浮世繪を繪畫として看す、一葉の寫眞として觀たなら何うであるか、更らにそれを活動寫眞のフィルムとして視たなら何うであらう、誰か之れを美なるものと謂ひ得やうぞ、實にそれは遊蕩の教書であり、怯懦の表徴であつて醜の極致溢惡なるものである。然かも社會では往々にして之れを具體化し、その副利益として家庭戰爭破産遁走といふ樣なる幾多の悲劇を恒に繰り返へして居るのである。浮世繪に上る樣な女子が縉紳の夫人となるの不體裁は暫く忍ぶ迄も、その前提であり順序として爲さるゝ遊蕩は決して褒むべきものではない。單に夫れは物質的には財貨の浪費であつて個人經濟破壞の基因であるのみならず、肉體的には精力の消耗と化つて生命短縮の端緒となり、精神的には家庭の團欒を破つて悲劇發生の誘因となり、延ひては社會の秩序を紊るの結果を招來するのであるから、渾圓球上日の照る限り、斯くの如き風習は在らしめてはならないのである。然るに世間動もすれば醉枕美人膝、醒收天下權など、唱えて、恰も英雄豪傑の本領なるが如く心得ゑ、不品行は男子の特權なるが如く思つて居る者のあるは洵に愁ふべきことである。然し斯くの如き思想は妄想であつて、何等根柢の無いことは言ふまでもないのであるが、一杯の酒に呑まれて自由を失ひ、纖弱い婦女子の看護を享けなければならぬ樣な英雄豪傑が如何に多くあつても、一旦緩急の場合には、もの、役に立つべき理れはない。加之、女子に對つては貞操を強要し、自らは遊蕩に沈湎して恬然恥色なく、寧ろそれを特權視するに到つては甚だしき不合理であり眞に言語道斷のことである。殊に我が國の上流家庭には此の風習尤も敦厚にして、妻妾を同居せしめて居る樣な例は枚擧に遑ないのであつて、女子に對する壓迫女子の虐待も上流社會が生活に餘裕がある丈けに一層濃厚であるが、私は女子の名譽を保持する爲めに、從來蹂躪せらるべく運命付けられた標識、一夫多妻公認の不條理なる女大學七去個條は全く社會から抹消すべきものであると思ふ。而して女子は男子の命に維れ從ふと謂ふ樣な人格を無視した、而かも『或問、妻可レ出乎、曰妻不レ賢出レ之何害、如二子思一亦嘗出レ妻、』と云ふ樣な儒毒も當然一洗せられなければならぬものであると信ずるのである。此の如き因習を打破し女子をして眞に人間として立たしむるには、怎うしても女子の自覺を誘導すべく教育の機會均等は必須な事である。而して男子の遊蕩に對しては社會的裁制を加ふべく制度の創造が肝要であつて、其處に新社會に處する新道德が建設せられなければならない。斯くして初めて家庭の和平も保たれ、社會の康寧も期待せらるゝのではあるまいか。今や世界各國は平和を維持する爲めに國際聯盟を締結して居る。是の時に際し誤れる豪傑觀の謬想から隨所に男女の葛藤生じ、間斷なく家庭戰爭の繰り返えされるといふ事は矛盾の極である。寫眞は事實の確實なる描寫であり、浮世繪は現代社會の活ける寫眞である。卽ち私が浮世繪を溢惡と爲す所以である。（清美）



Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

廓清
THE PURITY
大正十年三月
第十一巻第三號

# 墮落暗黑の社會

廓清會長 島田三郎

□

沈思して社會を觀ずるに、其の外に現はるゝ弊害は種々の形を示すも、要するに由つて來る病根は、人心が安ずる處なく漂々として浮草の如く、目前の生活を營むの外何の信仰もなくなつたるにある。また物質上の快樂の外精神上の興味を失つて、物質の快樂を受けんが爲めには、何事も憚る處なく追求するといふのが、表はれて種々の忌むべき現象となつた。これが今日の大勢である。

人が人として生きないで、動物として生活慾を貪ぼるとなつたら、その墮落は極度が知れぬものである。唯人間の動物に異るのは、其の表面を飾り、形式的に種々の名目を作つて、是を高尚な文字に現はすだけであつてはならぬ。口にするを憚るべきであるが、眞實だから仕方がないが、今日流行の忠君愛國の文字は、元より立派であるが、其人が果して眞實に此意義を體認してゐるか、愛國の名の下に愛黨となり、愛黨の名の下に愛自己となつてゐることはない乎、御眞影を恭しく禮拜する學校の儀式は、果して眞實に皇室を尊ぶの精神を全國に認め得る乎、近き切實の例を云へば宮中に關する某重大事件の爲めに宮內大臣が交迭し、尙ほ宮中の大官が隱退せざるを得ざる程の問題であるから、此の問題の眞相を陛下の愛せらるゝ衆民が知らぬに止めるべきではない、知つて皇室の爲めに喜憂を共にするの情が湧かねばならぬ。官僚がその事實を新聞紙に掲載するを禁じて、單に重大事件といふて居るが、是を研究し是を發見して喜憂を皇室と共に

しやうといふ精神が社會の各方面に發見されぬのは、果して平生口にする忠君の精神が、教育社會を通じて國民に充滿してゐると認めることが出來る乎。

一部の有志が天皇陛下の御健康を神社に祈り、且つ御寢食常ならざる時期に於て、天つ日繼の御子の御外遊は期てないと唱道して、是を元老大官に警告し、且つ世界の人心が諸國の帝室に對して不穩である時代、過激思想の諸國に遍蔓して特權階級に反抗する時期、特に我が帝室に於ては新判圖の朝鮮の一部の激者が不穩の擧動ある時期、皇太子殿下の御外遊は暫く御延期あるべしとの說を唱へたに不拘、その事の當否を眞實に研究批判して皇室の御爲めに民意を發表するの氣象甚だ薄き如きは、果して平生の忠君愛國の教育が、國民に普及して居るや否や、單に御寫眞の禮拜の儀式に止まる形式的教育の效力の薄きを感ぜざるを得ぬではないか、官僚の徒は儀式に生き形式に呼吸して居るから、心を主とし精神を大切と見る觀察者の意見とは、常に背馳の差のあるのは、此の一事に對しても明かて、民情を見るの見解を異にするものがある。

□

愛國のことに至つても亦是と一樣である。眞に國を愛する者は、國民に內外の形勢を諒解せしめて、平時に於ても戰時に於ても、國民總動員の覺悟を常に準備するのが、眞の愛國教育の合理的希望であらねばならぬ。是を爲さんとするには、教育が現在の國勢を理解せしむる的の方法であらねばならぬ。

然るに一方には憲法を布いて國民に政治に參せしめながら、他方には政治を理解するの道を途絶して居るのである、たゞに教を受ける子弟が、現任政治的國民の資格を教へられざるのみならず、教育專任の先生達が、政治的知識を有するもの殆んど稀で、自然科學の先生は暫く措き、法律政治經濟歷史の政治的學科を講ずる教師も、徒らに諸外國の先例我國の故事を談ずるのみにして、現在の政治並びに社會とは沒交涉であるから、その子弟は全く現在の政治には無智であり迂濶である。此の點に就ては英米佛等の教育家が、國論を製造し、或は時論を捕へ、現在の活事實を論評し、政治家を警醒し國民を啓發するの、政治的知識の製造家たるとは、全く趣を異にして居る。大學及び專門學校の教授すら斯の如くであるから、是より以下の普通教育の先生達に至つては、政治的知識を全く缺如してゐる。而して是を通じて教育を受くる國民が、政治に對して無智であり、政治に關して興味を感ぜざるは、自然の結果であつて、今日の政界の低級なるは一に此の制度の缺點である。

□

更に我國の一大缺點は、道德的素養を與へる場所なきことである。東洋の大學に囚はれてゐる人は、西洋は科學知識の國てあるが、道德に至つては東洋が勝れてゐるといふ。併し乍ら是は內外の比較に適當の眼識を有たぬ人の論評である。文明の上流に居る自由國は、此點に於て一大利器を有してゐる。先以て家庭の教育に於て家を重んじ社會に對するの義務



Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

を重んずるの敎へを父母を通じて注入せられ、更に日曜學校幼稚園を通じて早く吹き込まれる。斯の如く敎育せられて更に專門の道に分け入れば、宗敎方面の活動者は、或は靑年會の機關により、特に敎會の機關によつて、市民敎育の道德的方面を開拓する。大別するに歐米の大學は知識の淵叢となりその敎會は德育の泉源となつて、市民の智德を涵養して居る政治の墮落と暗黑とは、之が爲めに照曜濟補せらるゝのである。

近き例を云へば東京市の收賄事件の如き、是を歐米の都市に現出せしめたならば、直に敎會の問題となり、市民の良心に訴へてその覺醒を促す活動が、非常なる猛勢を以て現はれるのである。否寧ろ弊害茲に至らざる前に此の方面から其の摘發の運動が湧き出づるのである。タマニーホールのニユーヨーク市を毒害して、黨派も救ふ能はず政治も是を洗ふ能はざる時に當つて、第一の喚聲は何れから起つたか、牧師の敎壇の叫びによつて、市民の良心は深き眠りより覺めたのである。賣奴の慘劇が極度に達して、利益の爲めに政界は動かなかつたが、第一に其聲を揚げたのは宗敎家の方面で、或は人心を動かすの小說文學となり、或は改悔の念を發せしむる說敎の雷轟となつて、其結果政治界の風雲を捲起し遂に奴隸放の結果を生ずることゝなつたのであつて、其發源は此の方面の啓發の力である。

現在日本の社會を見渡すに、國民恰も催眠術にかゝれる如く、弊害社會の各階級を侵すも、昏々として正體なきが如し何れの方面に於ても一たび其の外を飾れる衣服を脫ぎ去らんか、皮膚糜爛して創痍に侵されざるなき有樣である。近き表面に現はれた處を云へば、東京市の大疑獄は愈々出て愈々甚しく殆んど收拾すべからざる有樣である。橫濱の稅關事件も亦猶ほ發展するものゝ如く、門司にも同樣の事件あり昨年に遡れば收稅吏の收賄あり、更に前年に遡れば米の廉賣事件に關する收賄事件あり、なほ遡れば米買入に關して農商務官吏の米商殺害事件あり、眼を遠く放てば、現實に大連に起れる阿片密賣事件あり、滿鐵の腐敗嫌疑事件あり、或は前年來續々九州方面に起りたる製鐵所長官の自殺事件鐵道官吏の收賄事件等、殆んど枚擧に遑がない。殊に多數人民の飢餓に瀕する時代に却つて當局官吏が收賄して米の廉賣を妨げたる如きは、最も皮肉の醜怪事件と云はねばならぬ。

□

『禮儀廉恥は國の四維、四維張らざれば國即ち滅亡す』と管仲は二千年前に絕叫したが、現在の日本は果して四維が高張せられて居るか、斯の如き狀態にありながら、此の濁流の中に浮游する政治方面に、痛擊の聲の起らざるは、濁流が淸流を呑むの勢ひ然らしむるとしても、なほ此の潮流の外に立つて別に社會の向上を祈念する獨立の人士あらば、此邊にはせめて廓淸の聲が起らねばならぬ筈である。我國の宗敎家は果して如何の感を懷いてゐるであらうか。

近時宗敎家は、自己の發議權を政界に得んが爲めに參政權を要求してゐる。是には耳を傾くべき理由なきに非ざるも、現在に於てたとへ政論壇上に立つて發議の權なしとするも、



Digitized by Google

Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

自己の領域即ち道德壇上に充分發揮の機會を有してゐるではないか。然るに社會が斯の如く墮落ハ深淵に沈んでゐるのを見て、何の感覺なきが如く廓清の擧がらざるは何事であるか。宗教家は徒らに形式的祈禱を捧げ、儀式的經典を誦じて我事足れりとしてゐるのであるか、抑も斯の如き社會の危機を傍觀して何の感覺もないのであるか、此の點に於て我國の宗教家は職業的儀式的執行者にして、國民の悔改を促し正道の振起を圖る精神的活動者に非ざるなきかを疑ひ且つ歎かしめるのである。

□

既に斯の如くんば我が日本は果して何によつて維持せらるべきか、現實の活動者たる政界は彼の如く、將來の國民を養成すべき教育家又彼の如く、而して國民の良心を喚起して其の改善を促すべき宗教家また斯の如くであるならば、此の社會を維持して將來の國運を安全に進歩せしむるものは、是を何れの處に求むべきか。

人が自己の幸福を求むるのは自然の性である。其の低く現はるゝものは衣食の追求となり、僅に進める者は家族の安全となり、更に進めるものは社會國家の隆盛を祈り、後代の進歩繁榮を考へるのである。これは自然の情の進歩である。今や我日本は極めて低級の欲求に喩喁してゐる。一個の安寧、一家の安寧だけには考が及ぶ、其の經營の爲めには官職を貪り、財產を作るたゞには相當に活動するが、さて之を永遠に保續して文明の進歩の資源となす程度には進んでゐない況んや他の進歩を求めて之を己れの幸福とし、更に國家後代の繁榮を求むるが如き心は全く缺乏してゐるのである。心あるものは此の現狀に甘んずるを得るか、普ねく同胞の深思熟慮を乞はねばならぬ。

## 帝都の死產兒

東京市民の出生と死亡の關係に就て見るに生活難の齎す婚期の遅延と婦人の就職に因る身心過勞の爲に市民の出生率は繁殖し行く人口に反比例して年々減少し死亡率は却つて増加すると云ふ狀態であるが大部分の婚姻は一月から三月迄の間に行はる、爲に出生の最も多い月は十月から十二月迄で約八千人最も少い月は六月から八月迄其數は約三千五百人であるそして男子も女子も一番出生の多い月は一月で前者は三千九百内外後者は四千人内外であるが又一番少い月も兩者共六月で其數は前者は二千人内外、後者は千九百人内外であるそして大正三年迄は男子は出生數は女子の出生數を越す事年々二千人内外であつたが大正三年後は却つて男子の出生數が女子に比し、約千人内外の不足をつげて居るそれに近年は又就職婦人の過勞の爲に死產が著しく増加して大正八年には其數は三千九百八十七人の多數に達したが其男女別は前者が二千二百五人、後者が千七百八十二人で男子が四百廿三人の多數である　何れも一月が最も多く其數は四百六十八人内外である次に大正八年度に於ける死亡者は六萬三千二百人で出生數の六萬二千七百六十七人に對し約千人の多數を示して居るが其原因は呼吸器病が第一で千人に對し百四十九パーセントを越え第二の胃腸病は千人に對し九十八パーセントを示して居るそして呼吸器病中の第一位たる肺結核に因る死者は男女共廿五歳から卅歳迄の者が最も多く男子と女子と較べると女子の方が稍多數を占めて居る次に胃腸病に因る死者の九割は一歳から四歳迄の幼兒で胃腸病に因る死者總數四千四百五人に對し三千五百三十三人の多數を領して居るが一般を通じて死者の最も多い月は一月の四千七百七十人で最も少い月は六月の四千六十人であるが更に男子の死者の最も多い月は一月と十一月の二千五百人で女子では死者の最も多い月は十月と十二月で千九百七十人であるが斯く冬期の死亡者が夏期の死亡者より多いのは冷は概して室内に籠る爲に自然運動不足と暴飲暴食に陥るからであるそして死者を老年者青年者幼年者の三種に區別すると青年の死亡者が第一位を占めて居ることである



Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

# 所謂上流家庭の腐敗

廓清會副會長
早大教授　安部磯雄

## 夫婦別居生活の是非

此の頃井上匡四郎氏の離婚問題であるとか、安田の問題であるとか謂ふて、上流社會の醜聞が頻々として傳へられるのであるが、先づ井上匡四郎氏の方から私の考へを述べて見ると、無論新聞雜誌に書いてあることに間違ひがあれば別として、私共が讀んだものゝ中に書いてある表面に依つて見れば、井上氏の不品行が委しく書いてあるから、全然嘘傳であるとは思はれない。亦妻君が不品行をしたといふことが事實であるか否かといふに、私の讀んだ雜誌の記者は开麽な事は無いと明言して居るからそれが事實のやうにも思はれる。

實際には何れとも判斷は能きないが、假りに井上氏が不品行をしたのみならず、妻君を非常なる虐待をして家にも居られない様にしたとするなら、私達はこれを何う云ふ風に觀て良いであらうか。

夫婦が別居するに到るには、何方にも缺點が無かつたかと謂へば、それは何方にも缺點はあるので、また夫人の方にも缺點があると言はねばならぬ。夫婦が婚姻後別居しなければならないといふのには、夫婦が非常に性格が違つて居つて到底共同生活が出來なかつた爲めであるとするならば、井上氏にも同情すべき點がある。克く世間には、結婚して後に性格の非常なる相違のあるため、何うしても夫婦が同居出來ないといふ様な場合もあるから、さういふ場合の別居や離婚なら止むを得ない。然し私として怎うしても諒解能きない點は、舊來の日本の道德から考へて見ても、若し妻君が非常な不品行をしたと云ふ事實があるなら、當然離緣する事が能るのであつて、若し夫れが家附きの妻であつても、事實上非常なる不品行があるなら、日本の道德から觀ても亦法律上からも、此れは當然離緣して差し支へはないのである。

然るに井上氏は離婚でなく唯だ別居丈けをして居る處から觀ても、此れは夫人に不品行がなかつたものであると考へられる。

## 井上氏の去るが當然

さうすると、开う云ふ風の不品行が夫人にないとするなら他に原因を求めなければならぬ。

夫れは前へにも述べた如く、怎うしても性格の相違から夫婦が共同生活を爲ることが能きず、それに依つて別居するな



Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

ら、此れは井上氏が非常に不憫である。之れは當然井上氏が何かの理由を附けて離緣して家を出れば良いのである。然るに雜誌の記事に據れば、井上氏が夫人を非常に虐待し、また虐待したのみならず他に多くの婦人と關係したと云ふ樣なことは、甚だ不都合である。而して夫れ等の事に依つて家附の娘を別居せしめたといふことは不都合だと思ふ。开ういふ場合には、自分から去るべきが當然である。然るに其の事の無いのは、單に子爵といふものを失ひ度くない爲めてはなからうかと云ふ樣な疑も起る。

私達が此の問題を議論するのには、事實が明かで無い爲めに強い議論は能きないが、恁ういふことは上流の家庭には枚擧に遑ないほどあることであるが、若し妻君が實際に不品行であるならば、法律上當然離婚出來るのであるし、亦養子の方も養家を去るが至當である。其處で此の問題は、此の頃の上流社會の醜態を暴露したものとよりか考へられないのである。

## 一つは醜一つは美

此れに關して安田家の事件は、善三郎氏に對して徹頭徹尾私共は敬意を表さなければならぬ。私の觀た處では、善三郎氏を少こしも批難すべき問題ではないのである。唯だ善三郎氏が敏腕家で遣り過ぎた爲めに、親と意見が合はなかつたと云ふ丈けである。

殊に妻君が、親と別れても夫に從つて家を出たといふ此の考へは、尤も美はしいことであつて、私共は之れに敬意を表さねばならぬ。

安田家の問題は、新らしい道德觀念が古い道德觀念に打ち勝つたものと視ることが能きるのであつて、其の點は非常に痛快であるが、井上氏の方は、新らしき道德觀念から視ても全く成つて居らないのである。それでは古い道德から見て何うかと謂ふに、古るい道德から見ては前きにも述べた如く全然成つて居らないのである。

开處で私共は之れを觀るに、若し井上氏の事が實際の事實であるとしたら、社會の制裁として充分に社會的制裁を加へる必要があると思ふ。既に雜誌などに出て居るのであるから事實でないならば、井上氏も充分辯護の方法を取るべきである。然らざれば、井上氏も相當の地位にあるのだから、名譽にも關することであり、社會の誤解も深くなるのであるが、井上氏がそれが能きないとするなら、社會は井上氏の爲めに制裁を加へなければならない。亦井上氏にしても友人もあるのだから、夫れ等友人が相當の方法を取るべきである。

殊に安田家の事件は、之れが富豪の家に惹起つた問題であつて、由來富豪の家には種々なる事が起るのであるが、夫れが富豪の家に起つた事であるが故に一層美はしいのである。

◉後の烏が◉

支那の廣東女學生は大會を開催して、その決議に依り省長陳烱明氏に男女同校請願書を提出したといふことである。而してその請願書の主旨は頗る堂々たるものだとのことである。我が國の現狀と較べて觀ると實に霄壤の差あり、恰も後の烏が一足先に往つた形てある。吾が國には檻に入れられてる女さへあるてはないか!!!



Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

# 婦人の自覺を促す

廓清會理事
成女高女校長　宮田脩

## □一夫一婦の理想

井上子爵家の離婚問題は、新聞紙上に散見するところに依れば、家附の夫人が夫の凌辱と虐待に堪へ兼ねて惹起つた事であるといふことであるが、若しそれが事實であるならば不都合なことであると言ふ以外に何も言ふことはない。

妾を蓄くといふことが良からん事であることは、今更ら説くに及ばないことである。一夫一妻が天則であるか怎うかといふことは別問題として、過去に於ても一夫一婦もあれば一夫多妻もあるから、天則とは謂へない。今度の戰爭の後多數の男子を失つた歐米諸國では、一夫多妻が或は現出するかも知れない。而して Next Generatin を創造る爲めに、雄鳥一羽に雌鳥數羽と謂ふやうなことも許さねばならぬであらうと言はれて居るが如く、時と場合に依れば夫れも許さねばならないかも知れない。

亦最近性慾學上の研究の結果によれば、一夫多妻を許さない體質もあると言ふことであり、且つ既に人類は、過去の經驗を踏んで來て居るのであつて、一夫多妻の時代があつたにしても、結論が一夫一婦に到達したのであるから、假りに一夫一婦が天則でないとしても、夫れが我々人間の理想であるとせねばならぬ。己に之れを理想とするならば、即ち妻の外に妾を持つといふことは能きない譯になる。然るにその不都合なる行爲があるとするならば、其の事に於て既に紳士たる者は恐縮して居らばならぬのである。世間に對し、殊に我が妻に對しては一歩、否數歩を讓るべきである。

然し讓るは讓るが、其處から足が拔けないとするなら、心中に詫をして、而して切めて竊かに氣兼ねをして、特別の恩展に與るのでなくてはならない。

## □是認すべき離婚

然るに、其れを公然に見せ付け、また弱い夫人を脅してその妾なるもの丶機嫌をとるべく強要するといふ様なことは、暴威もまた甚だしと言はねばならぬ。

昔、大内義質の妻が妾なる者に、犒つて小袖を贈つたといふ話がある。而かも猶ほ同情を罩めた和歌を副へて、その勞を犒らつたといふことである。此れは確かに妻なる者の雅量を讚美すべきだと思ふ。

凡そ人が罪人に對すれば、之れを責め苛むことはあつて然



Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

るべきであるが、これを詰るばかりが能ではないが、モ少し大きく言ふなら、キリストがマグダラのマリヤに對した態度が欲しいが、其れは虐げられた人の態度であつて、妻なる人が、非常に寛容であるから宜いとか、或はそれが男子の特權であると思うてはならぬ。

若しくは、惡い意味で最と進んで、妾なる者の機嫌氣褄を取り、之れに一歩を讓らしむる事を要求するに至つては、之れを暴威と言はうか慘酷といふべきか、我々は絶對に與みする事が能きない。

それでも猶ほ忍んで、此の氣狂に類似した夫に貞淑の美徳を守ると言へば別問題であるが、事既に斯樣になつた場合に離婚を請求して、別の天地に活き様とするのは、何等批難すべき節を知らないのである。

## □反省促進の方途

從來幾多の婦人は、斯ういふ運命の下を涙を吞んで仕へたか知れないが、假りに之れを男子として考へたなら何うであるか、その夫人から恁ういふ虐待を受けるやうなことがあつたなら、到底も我慢は能きないのであつて、女子亦然りである。寧ろ斯ういふ場合に、日本に離婚の制度のあることを歡迎せざるを得ないのである。

本來離婚といふことは、性質上決して面白いことではないのであつて、正面から觀た道德から謂へば、誠に厭ふべく呪ふべき事件であるけれど、裏面から觀れば、殊に开ういふ場合の如きには、相手を相當に反省さすことも能き亦社會に警告を與へることともなるのであつて、道德上是認すべきことであると言はねばならぬ。

## □婦人の自覺が急務

井上子爵の事件に就いては、以上の考への外ないが、併せて一言しておき度いのは、斯ういふ問題が、一人井上子に起つたことであるのみならず、一般世間に甚だ尠くないのであつて、唯だ井上子爵が身分のある人であるので、世間が注意をするのであるが、一般家庭に枚擧に遑ないほどあるのであつて、社會の爲め痛嘆すべきことであるが、之れは何に依つて救濟すべきかといふに、其の途は幾らもあるが、斯ういふ事の起るのは、何と言つても婦人の自覺が足りないといふことに歸着するのである。

一般婦人は、狹い意味の良妻賢母主義に攫はれ、廣い意味に於ける人間として立つといふ考へが足りないから、禍せられて居るのである。

男は從來女を奴隷視し、女は之れに甘んじて從つて來たのであるが、此の習慣が今日猶ほ繼けられて來て居るのであつて、種々なる問題が其處に胚胎し、常に繰り返へされるのであるから、恁ういふ習慣は改められなければならないが、开處で玆に考ふべきことは、男子も反省しなければならぬが、より以上に女子が妻母たる前に自覺して、人間として立つといふ事を考へ、之れに對する用意をするといふことを高潮したいと思ふ。如何に社會が恁いふ事が不道德であると云つた處で、當の主たる婦人が自覺せねば、何千年經つても同じ事が繰り返へされるであらう。



Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

# 人間改造と婚姻改造

法學博士　山脇玄

## ◇人間の改造◇

凡そ改造の要諦として二つの方面があるが、一つは政治經濟組織制度の改造であつて、他は精神的方面の改造でなければならぬ。而して明治の維新には、前者卽ち政治經濟組織制度の改造は行はれたのであるが、精神的方面の改造は閑却せられたかの觀がある。其處で大正維新には怎うしても此の方面の改造が行はれなければならぬと思ふ。

乃ち今日では、制度は悉く完成して居るのであるが、その運用者の精神が改造せられて居らぬ。其れ故種々なる問題が惹起るのであるから、此れは何うしても緊急に改造せられなければならないのであるが、それには各人の家庭の改造から進むのが順序である。之れを例へて謂ふならば、設備の不完全な工場で物貨を製造しても、到底善良なる製品を得ることは至難である。其處で完全なる物貨を得んと慾すれば、先づ工場の設備を改造して然る後始めて善良なる工場に依つて生産せられなければならない。

善良なる工場に依て完全なる物貨を得られると同じやうに完全なる人も善良なる家庭から作らるゝのである。如何に制度が完備して居ても、その運用者が現在のやうでは何にもならない。其處で人の改造が必要であるのであるが、人間を作るのは家庭であるから、家庭の改造は此の際尤も急を要するのである。然るにその家庭が封建時代の風習から些しも改まつて居らぬのである。

## ◇婚姻の改造◇

家庭の改造は根本的改造を要するが、それは婚姻であつて婚姻があつて其處に家庭が創られ、家庭があつて人間が造られるのであるから、婚姻は實に家庭改造の根本を成すものである。

現今一般に行はれて居る我が國の婚姻の樣式を觀るに、未だ封建時代の家族制度の餘弊が改められて居らない。卽ち現在行はれて居る多くの結婚は、家と家との婚姻であつて、人と人との婚姻ではない。ヨーロッパにも勿論斯ういふ時代はあつたのであるけれど、現在では旣に失はれて居るのである。

婚姻は互に人格を崇敬する男女の、洗練されたる戀愛に依つて成されなければならない。夫れ故野獸的な所謂野合であつてはならないし、同時に家と家との婚姻といふ樣なことで



Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

あつてもならないのであつて、相當年齢に達した男女が、洗練せられたる戀愛に依つて結合されたものでなければならないのである。卽ち斯くして其の間に產れたものは、尤も精巧なる人間である。

如何に立派な大きな船を造つて見た處で、若し之れを操縦するに人を得なかつたら何んにもならない。その船は或は暗礁に乘り上げるとか、或は目的の土地へ遣ることも能きないことゝなるのであつて、精巧なる操縦者を得るといふことは尤も大切なことである。政治家も宗教家も敎育家も現今では皆嘘の人間で、政府などにしても何々調査會などゝ、殆んど我々の記憶爲し得ないまでに多くの調査會を作つて居るが、民衆の幸福の上に福音を齎す樣なことは能きないのであつて之れは畢竟制度は善いのであるけれども、其の運用者たる人が宜くないためであるから、人間の改造と謂ふことは肝要なことである。乃ち人間の改造を計るには、家庭の改造を要し家庭の改造を謀るには先づ婚姻の改造から出發しなければならない。

## ‖◇家と家の婚姻◇‖

近來井上子爵家の離婚問題が新聞雜誌に傳へられて居るが私は之れを事實として信じ度くないのであるけれど若しその報道にして誤りないものとするならば、甚だ遺憾なことである。开處で新聞及雜誌等に從來報道せられた範圍に於て考へて見るに、彼の婚姻は井上家と匡四郎氏の家との婚姻で、卽ち家と家との婚姻であつて、本人同志の洗練せられたる戀愛によつて成されたる、人と人との婚姻ではなかつた。其れが抑も今度の彼樣問題を惹起すに至つた原因であつたのであると思ふ。

匡四郎氏が井上家に養子に入籍つたのは未だ高等學校時代であつたので、其の當時夫人は漸く十代の小娘であつたに違ひないのだからその間に洗練されたる戀愛のあらう筈がない唯だ双方とも無理解の裡に强いられ結合された婚姻であつたやうである。併し戀愛は婚姻後生ずる場合もあるのであるが井上氏の如く全然相互の間に愛がなく、而して何うしても井上氏にして之れに耐え難いならば、自ら養家から退去し離婚したなら當然である。けれどもそれが成し得ないのみならず新聞雜誌の報道の如く、夫人をして同居に耐え得ざらしむるまでの虐待を敢てしたとするならば、其れは甚だ不都合なことで、非人道的な行爲と云ふべきであつて、到底紳士の採るべき態度として視ることは能きないのである。

## ‖◇婚姻後の戀愛◇‖

安田家の婚姻も決して人と人との婚姻ではなかつた。寧ろ此れは、家と家との婚姻といふよりも財產に養子をしたのであると謂ふべきだ。何れにしても今日の婚姻は本人の自由意志に依つて結合されたものであるとは言へないのであつて、周圍の强制に依るものである。

卽ち善三郎氏が安田家に入る前には、試驗時代といふものがあつたのであつて、善三郎氏は大學卒業後雨宮氏の推薦に依つて初めて安田家に入つたのであるが、夫れは養子として



Digitized by Google Original from COLUMBIA UNIVERSITY

選入つたのではなくて、養子の候補者としてゞあつて、果して養子として安田家の財産を管理爲し得る人物であるか何うかに就いて試驗せらるべくその俎上にのせられたのであつた。先づ安田の銀行に働かせられ、更らに支店長として地方に遣られなどして、その間に數年の歳月を經過して、試驗に合格し、愈々養子として定められたのであつた、善三郎氏が敏腕家であるが故に定められたのであるから、之れは財産に養子をしたと謂ふのが當を得て居るてあらう。

善三郎氏が養家に入るのには上述の如くであつて、夫人との間には戀愛はなかつたのであるが、今度の離婚問題の起つた時に、善三郎氏が餘まりに敏腕家であるが故に、安田家の財産を擁護すべく善三郎氏の作つた機關たる保善社が善三郎氏を排斥する樣になつたのであるが、善三郎氏の夫人は自ら夫の爲めに非常に辯護し、父に諫言して容れられず、それが爲めに父に反して夫に從ひ、遂ひに夫と行動を俱にして家を去つたといふことは、實に立派な態度であるが、之れは同棲して居る間に、即ち結婚後双互の間に戀愛が生じた結果であると觀るべきだ。

## ＝◇誤れる教育◇＝

由來今日の教育は、人間を造るのではなくて學問の斬り賣りをして居るのであるから、既に間違つて居るのである。それては智識は得られるてあらうけれども、決して善良なる人間は出來ないのてある。然し人間は家庭てなければ作れないのてあるが、その家庭が今日の狀態では人間を造るに適當な場所ではない。井上家のことてあるとか、若しくは安田家の問題にしても、偶々それが表面に顯はれた爲めに種々世評に上つたのであるがその他上流社會の腐敗紊亂は實に甚だしいので、芳川伯爵家の事件にしても、双互の間に愛のない結婚が禍をなしたことは蔽ふべからざる事實であつて、人間を造り變へることが必要であると同時に、その場所たる家庭、その根本たる結婚の改造は何うしても行はれなければならない。

而して教育の方法も改めなければならないのであるが、今日の如き間違つた教育では、間違つた人間が造られるばかりて完全な人間が出來る筈はない。それには男女共學といふ事は尤も機宜を得たことてあると思ふ。

若し一級の内に男女を混合して共學せしむるならば、年少の内から男女はともに異性の性質を理解し合ふことも能き、亦一方に於ては男女は俱に競爭の姿になつて學業の奬勵の方法ともなるのであつて、その利益は決して尠くはない。そして既に年少にして互に異性の性質を理解して居るのであるから、その理解し合ふた男女が、その自由意志に依りて、洗練せられたる戀愛のもとに婚姻をすることゝなつたなら、今日の如き種々な家庭悲劇も軈てその痕を絕つに到るてあらうし從つて此くの如くして人間の眞の改造も行はれるてあらうと思ふ。（清美）

山脇先生の男女間の道徳、婚姻に對する御說明は非常に廣汎なものであつて、微に入り細に亘り、或は例を東洋に將た西洋に採られ、殆んど盡くる所なき、有り樣であつたが、紙幅に限りある爲め之れを抄錄したので、或はその間に、聊かの誤謬なきを保し難いので特に末尾に署名した次第である。（清美）



Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

# 議會に就て

田川大吉郎

## □英國政治家の襟度

私は「英國の王室及び議會」なる著書に於て、英國の王室及び議會のみならず、日本の政黨及び議會に論及して置いたのであるが、今回は特に日本が英國に習ふべき點に就て陳べることゝする。英國の最近十五年間の議會及政黨の歷史を嚴密に調査するならば、幾多の缺點もあるであらうが、私は大體に於て滿足すべきであると思ふてゐる。第一に私は英國の政事家が其の同胞たる貧民やその他の民衆に對する心事の公明にして、其の態度の謙遜なるに敬服する者である。私が「英國の王室及び議會」の終りに揭載して置た一事の要領を陳べて之を證する事とする。

時は六月二十日(大正三年)の朝、英國首相アスキスの應接室に、婦人參政派東部同盟代表者たるスカア夫人を始め外五名、及びスカア夫人の良人と外一名の男子が迎へられた。彼等は首相アスキスに向ひ色々生活上の苦情を訴へた。そして其の次に婦人參政權の要求を申陳べた。アスキスは鄭寧に其の苦情や要求を聞き、親切に慰めて答ふるのに「現實の政治が諸子の希望し、要求する水平點に達して居らぬにせよ、幾分にても諸子の希望や要求を和ぐる樣に、奮勵努力しつゝある事は認識せらるゝであらう。又諸子が今話された生活上の悲慘なる出來事や、其の他の諸問題は、國內の凡有賢者を議會に舉げ盡しても、僅かな年月の間の性急な手段では到底解決し難い、困難にして込入つた問題であると思ふ。併し他の一つの點は、自分は諸子と全く同じ意見である。自分は常に言ふて居る。若し選擧權を婦人に與ふるなら、男子と同樣な條件を與ふべきであると云々」と、私はアスキスが此婦人參政派及貧民の代表者に對する平素の善き心掛けと、實際面會するに當つてその謙遜にして友情溢るゝが如き態度を偉いと思ふのである。

## □內閣交迭と其の形式

私は英國自由黨內閣に滿足してゐる一人である。けれどもロイドジョージは私の餘まり好かぬ人物である。何故かと云ふにロ氏は妄りに頭を屈する人でなく、歡心を買ふ人でもないだらうが、今日のロ氏の立場や態度は、保守黨と勞働黨の合の子である。今やロ氏は複雜なる勞働問題に就て勞働者と折衝しつゝあるが、目下の處統一黨に內閣の實權がある。兎



Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

に角あやふやなるロ氏であるから敬意を表する事が出來ぬのである。ロ氏が臨機應變的の人物であることは、チェムバーレインと同一型である。嘗て英國一般の國民が、チェムバーレイン自らが内閣を組織すると思ふて居た時に、彼れはその希望を裏切つて内閣を組織せなかつたのである。然しながらロ氏は實に才幹がある。尤も時代の進歩も助けたであらうが却々目覺しい活動家である事は私も之を認むるのである。

由來愛蘭自治案は、グレー卿の意見であつて、愛蘭の植民地自由を圖つたのであつた。三十五六年前グラッドストーンは、その片腕とも云はるゝチェンバーレインが反對したるに拘はらず、飽く迄も之を主張した、自治案の來歷を考ふるならば、從前の自治案は其の後多少修正せられたけれども、格別著大なる差異はないので、最初之を斷行して居たならば、今日の如き難問題はなかつたらうと思ふ。私はグ氏の識見卓拔なると正理に忠實なるに感服せざるを得ないのである。私は若し英國の保守黨に生るゝも、好んで自由黨になつたらうと思ふ。何ぜならば思想がそれに近いからである。

又我國に於て原内閣更迭説を新聞紙上に見るのであるが、私は冷靜に考へて更迭があらざるべく又あつてはならぬと思ふ。此の「英國の王室及び議會」の中にも大隈内閣の仆れる際の事柄を書いて置いたが、大隈侯が加藤子を推薦した事は如何であらうか、種々研究すべき事柄があつて、若し英國風の正しき順序から云ふならば、陛下の御諮詢を待つて推薦すべきであると思ふ。一例を申すならば西曆千八百九十四年であつたと思ふのであるが、グラットストーンは其の老衰のため、隱退の決心を固め辭意を申し出てた。するとヴイクトリア女皇は直ちにそれを御聽き納れに爲り、其の後任者に就てはグ氏に一言の御相談もなく、直接にローズベリー卿を召して内閣承繼の御沙汰を下された。グ氏は若し御諮問あらば海相スペンサー卿を推薦する下心であつたのである。然し乍ら一言の御諮問もなかつたため、グ氏は終に之を奏上するに及ばずして已んだのであつた。ヴイクトリア女皇は憲政の御精神を御有しになり、そして此事に就いて國民は少しの不平も言はぬのである。

又我が國で大隈侯辭職の時に、なぜ原敬氏を推薦しなかつたかと言ふならば、私は其の場合でなかつたと思ふ。大隈侯は老年のために骸骨を乞ふたのであるが、併し議會に於ける勢力は充分であつたのであるから原氏を推薦すべきものではない。其れは千九百五年にアスキスがその同黨派たるバンナマンを推薦した例に依つても識る事が出來る。

其うであるから今日の原内閣に於ても、原氏が罷めるとしても議會に於て頭數二百八十と云ふ過半數の勢力を有して居るに依つて、同主義の人を推薦すべきである。その時には齋藤、牧野、後藤、誰れでも同主義の者であれば宜しいのである。又日本では元老、貴族院、樞密院の力に依つて、内閣の交迭を遂げた實例が頻々であり、今尚ほ其れが繰り返されて居るのであるが私は斯くの如き暗がりの運動を排除して、萬人環視の下に正義を主張し、正道を履むべき事を望むのである。



Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

## □公明なるその態度

大正八年の春には朝鮮の獨立の運動が起つたのである。恰度その年の三月尾崎行雄氏と私は日本を離れ、四月米國へ行つたのであるが、在米の內外人より種々なる質問を受けた、けれども私共はそれに對しては一向存ぜぬと答へたのであつたが、米國の宣教師から招待などせられて、尾崎氏も私も非常に困つたのである。翻つて彼の印度の獨立暴動の事を考ふるに、英國軍隊はその際大砲小銃を放ち一千人以上の死傷者を生じたのであるが、それは將軍ダイヤーの處置か惡かつたのに依るといふ事て、彼は英國政府より罷免せられた。そして一面に於ては委員を設けて此事件の眞相を調査せしむることとなり、その選ばれたる委員は詳細に調査を遂げた結果、下院に於て盛んに論議せられ、結局投票に問ふ事になつた處が、政府案を非とする者百二十九票、政府案を可とする者二百三十票と云ふ譯て、兎に角政府案は是認せられたのてある。そして當時同國の新聞雜誌も盛んに此問題を論じたのてある。然るに我國には朝鮮の騷擾に就いては、大正九年の議會に於て誰れも質問せぬのみならず、政府當局者も何等話さぬのてある。英國の眞面目なる事に對し、吾が國の及ばざる事遠しと云はねばならぬ。是れが特に申すべき一つてある。

偖又茲に興味のある一事は、政府案に贊成したる二百三十票の內には、反對黨員の分が六十票入つて居る事てあつて、そして茲には日本と比較研究すべき重大の要點が存して居るのてある。卽ち英國の政府黨でも反對黨でも、一から十迄盲目的にその黨議に贊成するが如き事のない事實が證明せらるゝのてある。又政府黨でも、反對黨でも、その爲めに除名したと言ふ報知もない。私は此の獨立の意氣精神及び熱誠なる研究的態度を敬慕するのてある。然るに日本には斯くの如き事があり得ないのてある。又贊成投票二百三十票の內、若し反對黨の入れた六十票なきものとし、却つて反對に投票したと假定すれば、英國の政府は二百三十票より六十票を控除したる、百七十票と云ふ少數となり、反對黨は百八十九票の多數となつて結局政府は辭職すべき立場に立つたのであるが、全く反對黨の爲に助けられたと云ふ結果を來したのてある。アスキスの如きは、ロイドジョージに足を攫はれた恨みがあり、勞働黨の如きも多くの恨みを持つて居るに拘はらず、活きた問題に就ては公平冷靜なる活きた判斷をするのてある。日本ならば一議もなく、內容に頓着なく自黨に投票するに違ひない、吾々は嚴肅なる想を以て、此の英國人の政治上の觀念、氣分の麗しき所を見なければならぬ。私は日本にも是れが行はれねばならぬと確信するのてあるが、今日の處では却々困難の問題てある。そして英國政界に元氣あり生命あるのは、此事が行はるゝ點にあると確信するのてある。

## □我國普選問題の淵源

日本ては現に政府黨は二百八十人を有し、且つ夫れ等の人々は何等理義を顧みる事なく唯だ盲目的に自黨案に贊成して居るのてある。議會の內にすら獨立の思想なく獨立の議員がないのてあるから。況んや一般の國民に之れを望むは無理だ



Digitized by Google Original from COLUMBIA UNIVERSITY

又選擧法に就て考ふるならば、英國の小選擧區制は、幾多の不公平なる結果を齎らすべき弊害がある。而かも不幸にして我日本は今之に倣ふて、同一の弊害を繰返して居る。

千九百十八年に於ける英國總選擧の結果を申すなら、政府派自由黨の集め得た投票總數は百四十四萬五千餘であつて、其の當選せしめ得た代議士數は百三十六名であつた。それに對し非政府派自由黨の集め得た投票總數は百二十九萬八千餘であつて、其の當選せしめ得た代議士總數は二十九名であつた。作戰振りの下手な點や種々過誤もあつたらうが、百四十四萬のものが百三十六名を出し得る時に、百二十九萬のものが二十九名をしか出し得ないといふ不道理の現象は、どうしてもそこに其の選擧法の多大の弱點ある證據ではないか。

更に一例を示せば、この度の選擧に、統一黨(政府派)の集め得た投票總數は三百四十八萬四千餘であつて、而してその當選せしめ得た代議士總數は三百三十八名であつた。その反對黨たる勞働派の集め得た投票總數は二百三十七萬四千餘であつで、而してその當選せしめ得た代議士總數は五十九名であつた。一方は二百三十七萬の投票を以て五十九名を得、一方は三百四十八萬を以て三百三十八名を得て居る。戰ひの巧拙の伎倆に就ても、無論思はねばならぬが、然しながら戰ひの巧拙以外に、別に原因のあるべきことも亦想はねばならない。その原因は卽ち小選擧區といふ制度にある。その制度固有の病として、所謂小選擧區制度はこの缺點を多量に有して居ることが分るのである。日本も此點に就て大いに鑑みる所がなければならぬ。

偖又我國では、普通選擧の建議案は明治四十三年に提出して、同四十四年に通過したが、貴族院に於て穗積八束氏の代表的反對演說に依つて、遂に兩院通過に至らなかつた。その時の提出者は日向輝武氏と私と其他合計二十六名であつて、その立案者は私であつた。その後大正九年の二月には島田三郞氏の議會に於ける演說中に偶ま階級打破の言葉のあつたを奇貨として、政府黨の勝手なる奏請に依つて議會解散となつたのであるが、明治四十三年の私の案にも同じく階級の弊害を論じてある。又私は其の當時穗積八束先生の貸家に住んで居つたものであるから、貴族院に於て先生の議論のあつた翌日、先生を訪問して此普選の話を持ち掛けた所が、先生の言はるゝには、個人としては普通選擧に反對でないのみならず婦人にも參政權を與へたいと云ふ意外なる返答に驚き喜んだことを懷想するのである。

由來普通選擧の思想は、明治十三四年の自由黨より敎へられたのであつて、又その當時の改進黨今の憲政黨は却つて反對であつた。此淵源を探ぬるならば誠に奇妙である。又例の廿六名の內政友會員が十九名で、他の七名は佐々木安五郞、花井卓藏其の他の人々であつて、是れから考ふるも政友會に於ては、何れも心中普選を希望して居らるゝだらうと思はれるのである。兎に角我國の政事家たる者は、一種獨立的見識を有すると同時に、公平冷靜に我國民の意嚮と思想を考慮し之に適應する國策を立てなければならぬ。又吾々御互は內に顧みて、英國の議會及政事家の心事行動に就き、大いに習ふ所がなければならぬと思ふ。(講演大要、文責在記者)

# 勞働運動と人生問題（三）

辯護士　布施辰治

八時間勞働が私共の健康を維持するに差支のないものである限り、六時間の勞働を八時間に伸長したからと云ふて――尤も資産家の生産を制限する爲に、勞働時間を制限する場合は別てある――健康を害ふ譯てもなければ、勞働能率が低減する譯てもないのだから、勞働時間をモ一時間延ばせば宜いのてある。

六時間働いて一圓八十錢の收入しか得られない爲に其の日の生活に必要なる二圓に二十錢の不足を告ぐるならば、七時間働いて二圓十錢の收入を得る如うにすれば宜しいのである。私は之を以て理想的の遣方であるとは言はない、けれども先づ八時間勞働と云ふことを是認する現在に在りては、斯く言ふても宜しいと思ふ。斯の意味に於て、勞働條件の改善要求中、勞働時間の短縮のみを要求して勞銀の增加を要求せざるか、又は時間の短縮を求めずして唯賃銀の增加のみを求むるものであるならば、私は敢て深き同情を寄せるとは言はぬが、勞働時間の短縮を要求するに非ざれば自分の健康が維持せられない、自分の勞働能率が維持せられないと云ふ所から、勞働時間の短縮を要求して之を容れらるるとする、勞銀の値上を得るに非らざれば其の日の生活が困難てある、自分の肉を割き骨を削り血を啜る健康の傷害は、五十年の生命を十年搾り耗らして自分の肉を割き骨を削り血を啜らねばならない悲慘な狀態に切迫した對價的勞働條件の改善を資本家に強ゆる爲めの同盟罷業は、尤も眞劍味ある同盟罷業として、私の深く同情する所である。

## 七　生きんが爲の罷業

其處で、本件事象に現はれたる被告等の要求は、果して如何なるものであるかを見ると、健康の保持に堪へない長時間の勞働を八時間制に據らしめんとする時間の短縮と、時間の短縮を容れらるゝ事に由りて減少せられんとする最低生活費の維持を望む賃銀値上との二つに係つて居るのである是れ私が特に本件の如き同盟罷業に同情して尤も熱心に且つ詳密に本件の辯論を試みんとする所以てある。斯くして各種同盟罷業の原因は、毎に明かに資本家の責任である事を明かにせんとするのである。本件の經過を尤も惡し樣に報告して居る調書に依つて見ても、精工舍一般職工の意嚮は、八時間勞働及二割五分賃銀增加を要求するに在りてと云ふことになつて居る、十時間半若くは十二時間の勞働は、自分等の健康の到底堪へ得ざる處である。而かも從來十時間半若くは十二時間の勞働に依つて辛ふじて其の日の生活を維持する丈けの收入を得て居るのであるが十時間半若くは十二時間の勞働は、其の健康を維持し且つ其の勞働能率を維持する所以てないから、八時間に短縮しなければならぬと云ふ要求が容れられても初めの時間制に於ける



Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

賃銀を以て收入を計られると、今日迄やうやくに維持して來た丈けの生活が維持し得られない、四杯の飯は三杯に、三杯の汁は二杯に、三度の菜は二度に切り詰めなければならない樣なことに爲つて仕舞ふ、夫れては其の日の生活に必要なるカロリーの攝取が出來ないと云ふ所から、今迄やうやくに喰ふて來て居た四杯の飯は四杯、三杯の汁は三杯、三度の菜は三度の菜として、それ丈けは喰ふて行きたいから、それに必要な丈けの賃銀値上を要求しなければならないと云ふ本件の同盟罷業であることを考へれば、本件の同盟罷業に由る勞働條件改善の要求が如何に悲慘なものであるかと云ふことが分かるてあらう。後に詳しく述べる積りであるが、精工舍今日の勞働時間は十時間十分と云ふことになつて居るのであるが、何故十時間十分であるかと云ふことを工場法と對照して見ると其の時間の定め方が如何にも陰險である。實に酷い遣方である。工場法第七條には、十時間以內の勞働に對して與ふる休憩時間と、十時間を超ゆる勞働に與ふる休憩時間とに一時間の差を設けて居る、之を十時間以內とするか十時間を超ゆるとするかに由りて、勞働時間の上に含まるゝ休憩時間に多大なる差を見るのである。其處て巧みに工場法の規定を潛り休憩時間を勞働時間から除いて、勞働者に工場法の與へたる休憩時間を與へずして酷使する爲に設けられた十時間十分と云ふ勞働時間は如何にも酷い時間制てある。其の爲に彼等職工の健康が堪へないと云ふので、勞働時間を八時間に短縮することを要求し又賃銀に就ても、現今の賃銀率ては、長きに過ぐる十時間十分を働かなければ到底最低限の生活を支ふることが出來ないから、長きに過ぐる十時十分の勞働時間を八時間に短縮すると同時に、今やうやくに長い長い十時十分の勞働に依つて最低限の生活を支へて來た、其れだけの收入は、其の儘に置いて貰ひたいと云ふ勞働條件改善の要求は本件發生の根本原因てある。私は斯うした本件の根本原因に關する徹底的理解を求むる爲に、以上同盟罷業の原因と、同盟罷業の態樣から觀た同盟罷業の責任は、資本家に在るのであつて、勞働者に其の責を負はすことの出來ない所以を論述した所以てある。

尙ほ、一言附け加へて置きたい事は同盟罷業の結果として現はるゝ弊害の甚だ大にして且つ悲慘なることゝ、大なる損害を公共の目に見せる直接の原因は、勞働者の同盟罷業を決行する態度にかゝつて居る爲に、勞何時ても同盟罷業は、勞働者が勝手にやるものゝ如くに見られる虞れがある。從つて同盟罷業を決行したる勞働者に對して、深き同情を有たれない場合のある事てある。聞くが如くんば、米國に於ては近頃新聞同盟罷業に對して、一般の反感を煽ふることに資本家が力めて居るらしい。同盟罷業の結果に現はるゝ第三者の被害の如何に大きいものてあるかと云ふ事と、大なる被害を直接に惹起するものは、勞働者の態度の決定に在りと云ふ皮相の宣傳に力めて、同盟罷業に對する一般の反感を煽つて居ると云ふ事てある。如何にも他人の事なら三年ても堪へる皮相の見解に迷ふものは、勞働者さへ我慢すれば其れて同盟罷業は起らないのにと云へるてあらう。然るに勞働者が我慢をしないて、否な獨り自分の爲に我慢をしないばかりてはない。社會一般の便利の爲に自分を犧牲としても我慢しなければならない。我慢をしないて、社會一般の損害と迷惑とを顧みざる同盟罷業を決行する勞働者は、社會公共の任務を無視するものであると云ふ非難を加ふる者さへあるのてある。斯くして、勞働者の利益を計るものゝ如く見る同盟罷業の責任は、勞働者にあると云はるゝてあらう。現に東京に於ける電車從業者の同盟罷業に就て、一度び同盟罷業の決行を見た東京市は、市民唯一の交通機關は失はるゝ事に爲るてはないかと云ふ損害と迷惑との豫想から、電車從業者の同盟罷業に對して、餘り多くの同情が集らなかつた、否な寧ろ勞働問題に無理解なる市民の輿論は、電車從業員個々實際



Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

の生活にどの様な事情があつても、一般市民の迷惑を顧みない同盟罷業は彼等の我儘勝手である、彼等は一般市民の利益の爲に我慢するのが當然であると云ふ如うな風に考へて居る人が多かつた事は前に說いた通りてある、けれども、其れは餘りに皮相な觀察である。淺薄な考へ方である、私共は同盟罷業の起る一切の原因を見ないで、其處に惹起されたる同盟罷業の結果のみを批判すると云ふことは出來ない。それよりも止むに止まれざる同盟罷業の原因を與へて居るものゝ責任を問はなければならない。そして私は左樣して觀察の主點を所謂勞働者の同盟罷業は、眞に已むに止まれざるか、已むに止め得るかと云ふ人生の第一義たる生命問題に置かなければ爲らぬと信ずるものである。私の考ふる處に由れば、私共お互現在將來に生きて行く事ほど大切なことは無いのである。生きんが爲にと云ふ事程私共に痛切な問題は無い、生きんが爲にの行動は、夫れ自らの絕對である。生きんが爲の行動を壓迫したる者を責むればとて、其壓迫を排せんが爲の行動に對して批判を與へる權利は私共に許されて居ない實を言へば私共はお互に生きたい、仲能くお互に生きたい、彼の人を殺して自分が其の肉を割き血を吸つて、自分丈けが生きたいと云ふのではない、私共は何處までもお互に生きたい、尤も仲能くお互に生きたい、彼れ生き得れば我亦生きん、我死す可くんば彼れ亦死す茲に本當の人生の大義があるのであるから、生きんが爲めなりと云へども、一種の抗爭を意味する同盟罷業を歡迎すると云ふのでは無いが、しかし、前きにも一言したやうに、資本主義の經濟組に中毒して、暴利の爲に眞心の目を眩はす資本家が覺醒する注射と見らるゝ同盟罷業は、矢張り勞働者の生きんが爲であると同時に、資本家を生かさんが爲であると云ひ得よう。私は斯うした意味に於て、同盟罷業の結果を皮相に觀察した浮薄の見識に迷はされんとするものゝ說を啖かはしとするものである。

之を要するに、同盟罷業を以て直ちに勞働者の不心得なりと考へる人がある。けれども、其の原因的觀察を悉くして同盟罷業の切りに行はるゝ態樣の上から觀た同盟罷業は、飽迄資本家の責任なりと私は信じて居る。之れ私が本件を以て人生の第一義たる生命問題より觀たる同盟罷業の是認を主張せんと欲する所以である。換言すれば、精工舍職工の全體を通じたる生活改善の爲に要求したる時間の短縮と、賃銀の値上とを容れられざりし事に原因した本件の同盟罷業は、何人の煽動でもなければ、何人の勸誘でも無い、彼等當然の同盟罷業を決行したものであつたと云ふ事を論斷せんとするのである。私は此の論を強むる爲に、更らに勞働と人生との關係から第一段の辯論を進めて行かうと思ふ。

## 八　勞働と人生

人生問題としての勞働問題を考察するものは、第一勞働と人生との關係を明かにしなければならないそして勞働と人生との關係を最も徹底的に考察する爲には先づ勞働とは何ぞや、卽ち勞働の眞意義を究めなければならない。更らに人生とは何んぞや、卽ち人生の眞意義を究めなければならない、茲に初めて勞働と人生との關係を結び附けた人生問題としての勞働問題を考察する事が出來るのである。其處で私は勞働とは何ぞやの大體から究めて見たいと思ふのであるが、勞働と云ふ言葉に對する今日一般の理解は、勞働と云ふ言葉に含む眞の意義を現はして居らない、一般に勞働と云へば何んとなく一種之を蔑むやうな意味に理解して居るものが多い、然らば一方勞働の神聖を叫ぶ者は、本當に正しい勞働の意義を理解して居るかと云ふのに、必らずしも左樣ではない、寧ろ從來一般に理解せられて居た勞働と云ふ言葉に對する一種の蔑みに反抗して、勞働の神聖を叫んで居るのではあるまいかと思はれる、何れにしても一般に理解せらるゝ勞働は、一種の蔑みを有する點に於て、正しき勞働の理解でなく、亦所謂勞働神聖の理解は餘り



Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

に勞働の尊とさを誇張する點に於て、眞に正しい勞働の理解で無い。謂ひ換へれば勞働の意義を相對的の關係に理解して居る理解は凡て誤つて居る。所謂勞働神聖の誇張は、之れまで餘りに蔑まれて居た勞働の尊とさを誇張的に神聖だと云ふのである。又勞働を賤しいものとして蔑んで居たものは、言ふまでも無く、平かな意味に於ての勞働を正しく理解する事が出來ないお互ひ偏見に陷つて居るのである、然らば私の理解して居る正しい意味の勞働とは何んぞやといふのに、從來使ひ慣らされた勞働なる言葉には限られたる意味があると思ふけれども、之れは後に論ずるとして、最も廣義の勞働は、『自家の使命を自覺せる適材を以て、廣く人生に貢献する一切の活動なり』と定義する事が出來ると信ずる、又斯く定義し、斯く理解する事に由りて、始めて正しき意義に於ける、勞働は神聖なりと云ふことを理解し得るのである。故に勞働と神聖の見地から考察せらるゝ、勞働と人生との關係は甚だ密接である、何故なら私の信念する人生の短意義は自家の使命を自覺せる好箇の適材を適所に發揮して廣く人生に貢献する能率發揮の滿足に在るのだと云ふことに間違ひが無いとしたら人生と勞働との關係が如何に密接であるかゞ分かるであらうと思ふからである。私共人類窮極の社會生活を理想するものは、總ての者に社會奉仕の勞働的使命があると同時に總ての者に生活の保障ある國家の正義と云ふ事を考へるであらう。モツト／＼進んだ考へから言へば、左樣した私共人類窮極の社會生活と謂はるゝ勞働の藝術化、藝術の勞動化と云ふ事に依つて結び付くるところに本當の人生が確立さるゝのであると信ぜられる私は斯の如うに勞働を解し、又人生を解し、更に勞働と人生との關係を結び付けて行く處に勞働問題の解決があるのであり、斯うした人生と勞働との關係は、何人にも肯定せらるべき眞理であるに相違ないと信ずる。而して、眞に勞働問題を解決するものは、私共の生活を安定する生命の維持を基調とした人生の向上で無ければならないと云ふ事を知つて居るものは、所謂勞働問題を以て人生問題なりとするに躊躇しないであらうと思ふ。

## 九 人生の實在と生命の尊重

私は、今此點に就て、他の論證を求むるよりも、私共の重大視して居る勞働問題を輕視閑却して、所謂勞働問題の解決を國民生活の安定に求めようとしない今日の政府當局と云へとも生命の尊とさを知つて居ると云ふ事實を擧げて置く。

夫れは、内相床次竹二郎氏の名に由りて發せられた、民力涵養の訓示である一時有名なりし青年ブローカーの文士論客を集めて地方講演を行らせて居るのも彼の所謂奈良丸問題も、此の民力涵養に關する訓令の結果であるが、民力涵養に關する訓令の如何なるものであるかは、訓令自體を見れば分かるのであるから暫く措くとして、此の訓令を敷衍する講演資料の中に、生活の尊嚴と云ふ一章があるのを勤儉の部と云ふ處に掲げて居る處を見ると、積極的の人生を理解せしむる生活の尊嚴を敎へる爲に書かしめたのでは無くて、寧ろ生活の尊嚴と云ふ事を逆に取つた消極的の人生を諦めしむる爲に己れを守れと云ふ事を敎へやうとしたものらしく思はれる。けれども、其の一文は

十分に生命の尊さを知らしむるに足ると信ずる。文字自體は確に生活の實在と生命の尊嚴とを語つて居る。

曰く、「厳粛なる形を以て自己の存在を認め、自己の使命を覺り、敬虔の念慮を以て自己の生命の大切さを思ふものは、現在の生活をヨリ完全にすると同時に其の完全なる實在を更に將來に繋ぐ事が、自己の生活を尊嚴ならしむる所以である」云々、而して、更らに「斯くの如き生活を營む事が、其人の一擧手一投足に光輝あらしむる所以である」と書いてある。尚ほ續いて「人生は夢でない、人生は實在だ」と言ふロングフエローの歌を其所に引いて居る、尚ほ續いては、「其の實在せる人生に執著し、其の實人生の實生活に身も心も打込んで、側目も振らず働く事は、其の職業の如何なるものであるにもせよ、其事が既に立派なる宗教であるから、其所に安心もあれば生命もあるのであると教へて居る。斯うした文字を以て内相の目指した民力涵養の眼ひ處は各自現在の職業に勉勵せよと云ふ點にあるのであらう。成程職業は、既に立派なる宗教だと云ふ事は宜ろしい、が、しかし、之を前提として現在あるが儘の職業に滿足し收入に滿足し、生活に滿足して之を營むべきであると教へて居るのは間違である。現在に滿足せよ、現在のあるが儘に滿足せよと云ふ諦め主義の傳道は私の與みし得ざる所である。創造進化に活きる私共の人生に進化を教へないで靜止を教へる教へ方は、如何にも消極的の事勿れ主義である。故に私は、斯うした教へ方は間違つて居ると信ずる、けれども、人生は夢でない、人生は實在であると云ふ教へ方に間違は無い、人生の實在を信じて其の實在を永遠に保持した創造の進化に活くる向上を圖つて行くところに眞の人生があると云ふ教へ方にも間違が無い生命の尊とさを叫ぶ神の聲が其處にある事にも遠ふべき餘地が無い。此の意味に於て、民力涵養の資料中に集められた人生の實在は、生命の尊とさを教へるものであると云ふて宜しい。

思ふに、世界を擧げて改造の熔爐と爲せる改造の要求は、有りと有らゆるものに對する今日の革命的基調と爲つて居るのであるが、左樣した革命的基調は、一種の産業的革命であると同時に、政治的革命である、又、政治的革命であると同時に、又一種の宗教的革命であると考へられる。否な寧ろ、私の見る所に由れば總ての革命の根本基調を成するものは宗教的心熱に燃ゆるものでなければならないと信ずる、約めて言へば宗教的革命が行はれて、其他の革命が之に附隨して來るものではなからうか、宗教的革命を伴はない革命の成就は、殿堂が出來ても未だ本尊が安置せられない狀態ではあるまいか、何故なら、最も革命の尊とさを自覺する所に、私共の生命を蹂み躙る如うな一切の制度を排斥せざれば止まないと云ふ革命的基調の眞劍味を添ふるからである。

## 十 改造運動と宗教革命

公平は天地の眞理にして、因果律は自然の原則である、私共人生現在の施設は何處迄も公平でなければならず、因果律の支配も亦飽迄自然的でなければならない、然かも私共の人生を如實に置く現在の社會狀態は、公平なる天地の眞理に從ふ施設に爲つて居らない、因果律の支配も亦決して自然の原則を誤つて居らないとは言ひ得ない。而して私共は夫れを餘儀ない事に諦めて居るかと云ふに、必ずしもさうではない、矢張り相當の不平を有つ、少からざる不足を感じて居る、不自然なる因果の狀態に憤りを有たないものはない、不公平なる社會狀態の施設と因果律を倒錯して居る今日の生活に不可思議を感じないものは無い。然るに私共が今日迄何故不自然なる因果律の倒錯と、不公平なる社會狀態に服して來たかと云ふに、夫れは誤れる宗教に懐柔されて來た結果であると思ふ、私は、茲に生命の尊とさに目覺めた宗教革命がなければならないと思ふて居る。斯く言へば迚、私は決して單純な唯心論者ではない、眞に公平が天地の眞理にして、因果律が自然の原則であるとしたら、私共人生の現在は不公平に滿ちて居り、因果律の倒錯は其の極に達して居る。而かも今日の宗教は、斯うした社會狀態を不公平と、因果律の倒錯をどのやうに教へて來たかと云ふに、人生の過去現在、未來を分け



Digitized by Google Original from COLUMBIA UNIVERSITY

るに靈のみの前世、靈肉の現世、及び靈のみの來世と云ふやうな三世相に分けてゴマカして來たのであるが、私共は眞の人生を靈肉一致の唯一と見て居る、其所に人生の實在と、生命の尊さと云ふ正しい人生の眞意義を摑んで居る然るに、靈のみの前世と、靈肉の現世と、死後の靈のみの來世と云ふ三世相に分けて、短かい現在よりも長い過去と未來とに引き摺り込んで仕舞ふとするのが今日の宗教てある、併しながら人生の如實に自覺した私共は、今や公平なる眞理の支配に副ふて居らない、社會狀態を我慢して未來の公平を俟つ事を仕ない。又、現在の不自然なる因果律の倒錯に對して前世の約束と諦めない、今日の宗教で云ふ過去現在、未來を靈肉の現世に求めて、公平の眞理と因果律の原則を現世に主張するのである。之れ實に本當の人生の實在を知る者の主張でなければならない。私共の體驗を有せざる前世、私共の體驗に考へる事の出來ない未來、それは、私共の如實に摑んで居る人生の實在ではない、言ひ換ふれば、私共の茲に論議する事の出來る問題は、私共の苦樂を感ずる人生の現在である。茲に於て乎、靈肉の一致した生命の尊さと、自覺して來た私共は、公平なる眞理と、自然なる因果律の原則とを現在に主張して已まない。私共は現在に生きなければならない、現在に生きる爲には肉に生きなければならない。肉に生きる爲には食はなければならない、食ふ爲には生活の資料を得なければならない、之れ卽ち生活問題を基調とした種々なる運動の起り來れる所以である。處が今日迄の宗教は私共の不公平なる現在の社會狀態に就て前世に樂をした者が現世に苦しむのであると敎へたり、前世に苦しんで居た者が現世に樂をするのであると敎へて、前世と現世とを合せて見た公平を諦めしめようとして居るのである而かも、前世と現世とのみの公平に滿足する事の出來ぬ者に向つては、現世に苦しむ者が來世に樂をすると云ふ事を以てゴマカそうとして居る、現世に樂をして居る者は來世に苦しみ、現世に苦しむ者は來世に樂しむと云ふが如く、前世と現世と來世とを通じて見た公平を主張して私共の心を慰めたり、諦めしめたり、胡魔化したりして居るのである、けれども眞に人生の實在を信ずる者は、體驗の無い前世と云ふ假說を信ずる事が出來ない又、眞に人生の實在を信ずる者は所謂來世と云ふ想像の空想に胡魔化されず何處までも宗教革命の意味に於て、現世に於ける社會施設の公平と、因果律の支配とを求めなければならないと云ふ事を以て改造運動の根本基調としなければならないと考へて居るのが私の信念である、而して幾多の改造運動中、最も切迫して居るものは肉に活きると云ふ生活問題である、靈に活きる我慢は、奴隷の極度迄我慢する事が出來るのであるが、肉に活きる我慢は到底餓死する迄我慢する事が出來ない、靈肉一致の現世を信ずる私は、敢て靈肉の輕重を論ずる譯ではないが、靈の上に於ける生命は之を奪ひ蹴くされた奴隷の境遇まで我慢した後ちでも取り返す事が出來るのであるが、肉の上に於ける生命は之を奪ひ蹴くさると共に生の死滅を見るのである。而して、生の死滅は萬事休すてある、最早絕對に取り返す事が出來ない。

# 理想と生活苦（四）

足羽清美

## □此の醜態

神聖なるべき議會が、日比谷座の異名を冠せられ、漫畫子の材料に取扱はれて來たのは古いことである。國民の選良たるべき代議士が醉歩蹣跚議場に入り、互に罵詈雜言蛙鳴蟬騷して、時に敵味方入り亂れての大立廻りを演出することも此の頃に始まつたことではない。或る人が要路に立つて僅かの間に巨萬の富を得たとか、大臣になれば誰れでも財産が出來るとかいふやうなことが、恰も當然のこととてゞもあるかの如く國民の間に傳へられて居るのは、矢張り以前からのことであつて、我々の耳には既に已に耳胼胝が出來て居る。その如く我が國の政治社會の腐敗紊亂は甚だしいのであつて、未だ議會で居眠つて居る人間などは、溫順しい方であるかも知れない。

然し我々國民の膏血は彼等の爲めに其麼に無意義に浪費されたり、私せられる筈のものではない。大臣に多額の俸給を出して居るのは泥棒をして貰うためではなく、代議士に歳費を出して居るのも茶番狂言を演つて貰ゐたい爲めではない。石川五衛門の言ひ草ではないが、國家は盗人の始末に困まつて居るのであつて、そのために費されて居る國帑は決して尠ないものではない。我々は何うかして彼の赤煉瓦の建物を無くしたいと希つて居るのであるから、切めて上層から次第々々に最少し淨化されなければならない。滞淤の水は一見綺麗なやうでも、熟視ると底には無數の塵埃が雜然と堆積して居る。夏になれば子孑も寄生き軈て子孑は蚊となつて人を苦しめるのである。

怎うしても滞淤掃除は、一日も忽せにすることの能きない肝要なことであるが掃除夫が横着で「まア此の位なら」と誤魔化し仕事を遣るやうでは困まつたものだ。开麼な姑息な掃除の仕方では、何時まで經つても同じ事で、汚物は取り去らるべき時はない。シーメンス事件の時でも何うであつたか、彼れほど社會が飛耳張目して居た問題が、六千萬人の人間の監視の裡に呑舟の魚を美事逸して仕舞つたではないか。彼麼掃除の仕方で何うなるものか。而かもそれが七十五日經てば全く忘られるのだから、結極同じ樣なことが、恒に繰り返へされるのだ。畢竟ずるに掃除夫が怯懦であるから年中行事のやうに、走馬燈のやうに何時も同じ事が廻つて來るのである。

## □虐げられた民

开處で尤も割の惡いのは國民である。殊に我々無産階級の者供である。下手な寄席や田舎芝居を年々歳々觀せられて、空き腹を抱えて我慢して觀て居なければならぬとは何んといふ貧乏籤を引いたものだらう。

けれど最早や我々無産者には、开麼芝居などを觀て居る餘裕はない。我慢に我慢は繼けたけれど、空き腹は益々迫まつてくる、體軀は愈々瘦せ衰えてゆくばか



Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

り、そして雨露を凌ぐには軒端の貸手もない、慘めな逼迫した境遇に置かれて居るのであるから、我々は彼歴觀劇どころではない、夫れよりはその前に先づ生命を繼ける糧と雨露を凌ぐに足る小屋丈けは與えて貰はねばならぬ。之れは我々人間が生存する上に必須缺くべからざる要件であるから、その保證は我々の生活體國家がして呉れなければならない。卽ち此の問題の解決は國家の機關がなさねばならないのであつて、唯だ徒らに喧騷を維れ事とし、政權爭奪に寧日なく、自家利得にのみ汲々として國民を售るが如きは甚だしき不都合である。

我が國民は所謂窮して濫するものでないであらう。然しこれを絶對のものとして信ずることは能きないのであつて若し此れに處するの道宜敷きを得なかつたら何時如何なることが、何處に勃發せんとも保證なし難いであらう。それは何も私が奇嬌なことを言ふのではない。殷鑑遠からずロマノフ家の潰滅、また歷史を檢べて見るならば、例へばローマの滅亡の如き、その他此の種の事件は澤山にあるのであるが、その原因、動機は何んにあつたか。勿論我が國は他の國と國情が違ふのであつて、實に天壤と倶に窮まりないのであるが、マルクスやエンゲルスに學ばずとも、現在の實狀は隨所に往き詰まつて居るのであるから、局にあるものは相當の緩和藥の用意が肝要である。

## □地下の靈

其處で私は現在喧しく唱えられて居る住宅問題に就いて考えて見るに、此の問題も種々論議され、その内には尠なからず名論卓説もあつたのである。就中高島米峰氏の墓地移轉と共同納骨堂建設の意見は、私の尤も左袒する處であるが、然し私は今一歩を進めて、その共同納骨堂を地下を利用して建設したら最も妙ではあるまいかと思ふのである。

我々活きて居る人間が、棲むべき場所のない爲めに困まつて居るのに、石碑や墓標が東京丈けでも二十五萬坪といふ廣漠たる土地を占めて居るといふことは、考えなければならぬ問題である。夫れよりは各國都市とも地下を旺んに利用して居るのであるから、東京などでも何れ將來は地下を利用すべき時代は必ず來るであらうが、それが單に交通運輸機關の一部に之れを利用するといふ丈けでなしに同時に共同納骨所を地下に造り、死體は強度の電氣で燒いて、華族も平民も大臣も勞働者もその白骨を一緒に納める樣にしたなら一方逝ける祖先に對しては、地下の靈の意義を一層意義あらしめ、同時に四海同胞四民平等の實を擧げることも能き、また活ける人間に採つては棲むべき土地が夫れ丈け殖えるのであるから、兩々相俟つて都合のよい事であると思ふ。殊に祖先としても子孫をして一坪の土地でも有益に使用せしめ、自分達は永くその地下に靈を留めて子孫の繁榮を靜かに眺めることが能きるのであるから、勿論異存のあらう筈もなく、從來よりも更らに眠り心地が良かるべき筈である。

若し地下に埋めることが嫌であるとか亦名も無いやうな人間と一緒に納骨堂に容れられるのが苦痛であるといふ樣な者は、各自の家庭に置くことが能きるやうにすればよい。

## □山林田畑沼地

更らに富豪の庭園であるが、宅地以外



Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

に彼等の唱へて所謂山林田畑沼地と稱ふるものが東京市内に四十萬坪もあるのであるから、その内の一部は彼等に與へてもその大部分は公開せしむべきである。それでは彼等の負擔が大きいと言ふ人もあらうが、此れは當然のことである。

彼等は從來曲言して納税の義務を廻避して居たのであるからその懲罰の意味に於ても、また彼等は衆くの人の困窮して居ることを顧みず或る場合には種々不便を與へて然か傲然と構えて居たのであるから、その代償としても、此の位の義務を負擔し、此の位の犧牲は社會に對して當然拂つて良い譯である。況して宅地にしても總地積から建坪を控除し、更らにその三割を彼等に利用せしめるとしても二十一萬坪以上の剩餘があるのであるから、社會共存の意義からしても、此の過剩宅地と所謂彼等の稱する田畑山林沼池は當然社會に提供し、公開して其の福音を倶に分つべきであり、彼等としても社會永遠の康寧と人類永遠の福祉を考えたなら、寧ろ進んで斯することに向つて同意をすべき筈である。

## □陋劣なる富豪

近來富豪の内で、大分その邸宅を開放することが流行り出して、某の男爵は何處の別莊を開放したとか、某の侯爵は何處の地面を開放したとかいふやうなことが新聞紙に傳えられるのであるが、それ等の多くは眞に心からの社會奉仕の意味に於ける開放ではなくて、一片の杞憂から自ら攻擊の的となるのを廻避するための手段であつたり、また中には一種の射倖の爲め寧ろ營利的に打算の上からの結果であるといふに至つては、何處まで其の心事の陋劣であるかゞ窺はれる。

殊に溜池邊の××侯爵の如きは、東京市でその護岸工事をした爲めに、幾分自分の地所が殖えたので、その殆んど無償で得た土地を坪一圓の地代を取つて貸し付けるのであると謂ふ事であるが、その厚顏無恥なる態度に至つては、呆れるの外はない。彼は實に羊頭を揭げて狗肉を賣り衆人の困苦を僥倖として不當なる利得を畫策して居るのである。身は榮爵を戴き國寵を享けて居る人であつて、その人間にして猶ほ斯くの如き事を敢てして恬然恥ぢざるに置いては、國民の道德觀念に決して善い印象は與へないであらう。

此の如き人間も榮爵を頂いて居るが故に皇室の藩屏と唱え、上流社會と稱せられて居るのであるが、然かも彼等が以て下等社會となす熊公八公にも劣る樣な低廉行爲を平然爲て居るのである。嘗つては石の鑵詰めに憤慨した國民も、この石の鑵詰に等しい行爲者に對しては、何等社會的制裁を加えることが能きないとは、時代錯誤も甚だしいではないか。

## □嗤ふべき哉

此の問題の解決に、賣藥ほども利き目はなかつたが、昨年各地方に公設住宅といふものが計畫された。それは政府が住宅難緩和の爲め十五ケ年完濟の四分八厘といふ低利で、住宅建設の爲めに資金を各地方自治體に貸し出したものに依つて作られたのである。そして各地方から申込みがあつて、各地方に出來上つたのであるが、その一つに就いて私が直接見聞した事實を述べて見やう。

それは東京市の郊外戸塚町に於ける公

設住宅であるが、出來した家屋が極めて粗末であつて、豫算面に表はれて居る價格と著しく差のあることは、衆人の口を等しくして批評する處であつて、其の間に種々なる憶測を逞らすものもあり、良からぬ風説も聴かぬではないが、夫れ等は別問題として、その住宅の貸付方に就いても政府の社會施設は恁麼ものかと人をして首肯せしめる樣な事實がある。

その使用に就いての優先權者は、小學校敎員と役場吏員といふことは最初から發表された事實であつた。而して夫等の人々で實際に公設住宅を使用した者は建設戸數の三割ばかりであつて殘餘は公衆の要求に應じたのであるが、その公衆に貸與するに當つては、如何なる條件のもとに如何なる形式で貸與したかは未だに全く不明である。

公衆の中でその住宅の借り方を申込んだ者は三倍以上もあつたのであるが、その内の一部の人にその使用を許す前に、その町の理事者は如何なる順序を踐んでその資格を選衡したかといふに、申込者の各自に就いての個々の調査はして居らぬ。また抽籤の法にも依つては居らない。

然らば申込み順かと言へばそれでもない。實は斯く言ふ私は尤も早く申込んで居つたので若し申込み順であつたなら、當然それを使用すべき位置にあつたのであるが、何の通知にも接しない中に凡ての事は運ばれたらしい。數ヶ月經て私の問に對して當局者は「實は忘れて居たものだから」と。そして資格を選衡して除外したのでもなく、別段故意や惡意で除外したのではないのだからと百法陳辯して居た。

私がその住宅を使用し得なかつたことは、夫れ程の苦痛を私に與へはしなかつたのであるけれど、苟くも申込書を提出してあるに係はらず忘れて居たと言ふことは妥當の回答であらうか。若しその申込書を紛失若しくは破棄したものであるとしたなら、甚だしき不都合である。況して何等選衡の形式もなく貸與したといふ事は、二倍三倍の申込者に向つて克く公平を保つことが出來たか何うかといふ事は疑なきを得ないのであつて、僅かに一地方に出來た事ではあるが、政府の低利資金融通といふ出發點から考へて見ると決して局限されたる一地方の小問題として看ることは能きないのである。

概ね政府及びその系統の施設は斯くの如き狀態であるとしたなら、我々は夫れ等の者の爲すところを信じて晏如たるを得ないではないか。

## □解決の途

亦實際に於て、部分々々に五十戸百戸と住宅を建設しても大海の一粟にも値せず、依然として一ヶ年の敷金であるとか法外な屋賃に家主の皷腹を太らせ、僅か六疊一室の間代が十七八圓に敷金三ヶ月といふ樣な狀態が緩和せられないなら何の效果もない。夫れよりは市内に散在する諸種の整理が行はれたなら、百數十萬坪の住宅地は忽ちにして得られるのであるから、此の問題解決の鍵は此の方面に在るものと觀るべきではあるまいか、即ち諸所に散在して居る官有地で雜草の生ひ茂つて居る場所もある。東京の眞ン中に山林田畑沼蕪地などが尠なからざる地積を占領して居るのであるから、此れ等を整理して困まつて居る衆くの人々の住むべき場所を造れば尤も良い方法であると思ふのである。（つゞく）

# 思想の自由と言論の自由

辯護士　清瀬一郎

## ○言論と思想の自由○

私の了解する所に依れば、文化運動の極致は、思想の自由と言論の自由に歸すると思ふのである。それ故に個性の發達は、個人の自由に歸すると云ひ得るのである、又科學の進歩も生活の資料を豐富にするから、矢張文化運動である。然しながら若し大砲や小銃や毒瓦斯が、悲慘なる戰爭の爲にのみ使はるゝならば、勿論文化運動と云ふ事が出來ぬ。兎に角眞の文藝復興は總て自由の方面より來ねばならぬ。私は辯護士の職に在るが故に、法律上の事柄即ち日本の法律と自由の關係に就いて述べ樣と思ふ。此自由の內には各種の方面があつて、妄りに逮捕監禁せられざる自由又は營業の自由等種々あるが、今回はそれ等を拔きにして、思想の自由と言論の自由に就て陳べる事と致します。

此二つのものは、似たものではあるが同一に取扱はれぬ。西洋では思想は絕對に自由であり、言論は多少制限する國がある。先づ思想上の事を言ふならば、如何なる過激の考察を遂げ突飛なる瞑想をなしても、その思想の自由を制限せられないのである。我國では憲法第二十八條に『日本臣民は安寧秩序を妨げず及臣民たるの義務に背かざる限に於て信教の自由を有す』とあるから、此二十八條に牴觸せざる限りは、法律を以て信教の自由を制限する事は出來ぬ。故に妄りに法律を以て大本教を信ずべからずと云ふ事は出來ぬ。又假令制限しても無駄である。一般から言ふならば、思想とか、哲學的思索とか、人生觀とかの自由は、假令憲法に明文がなくとも許さるべきものであり、又各國共現に許されて居る。歐洲の歷史を見るならば、今より約四百有餘年前迄は、インクジョン・ヘレー主義と申して、その當時異端と認むる者を排斥し壓迫して、所謂思想の自由なるものがなかつたのであるが、獨逸にルーテルが起り、奮然として彼の有名なる宗教改革を斷行して、思想の自由が認めらるゝ樣になつたのである。

## ○吾が國の思想取締○

我國の德川時代にも、思想又は信教の自由がなかつたので、耶蘇教を信ずる事を嚴禁せられ、同教を信ずる疑ある者には、繪踏みと稱する事即ち基督の肖像を畫いた繪を踏ましめ、若し踏まぬ者があれば耶蘇教信者と認め、死刑に處したのである。然るに今日は誠に難有き時勢となり、信教の自由を認めらるゝ樣になつた事は、實に明治維新の鴻謨に依つたのである。明治大帝の御誓文五ケ條の一なる『知識を世界に求むべし』と云ふ事は、外來の思想を歡迎し研究すべしとの御主意である。それ故に明治初年に政府當局者が、モンテスキューを飜譯して木戸松菊の序文が載せてある位である。又

中江兆民がルーソーの説を盛んに飜譯宣傳したが如き、極めて自由の時代があつたのであるが、十年乃至二十年の後に於て、途中逆戻りして、壓制不自由の時代となつたのである。

明治二十年に保安條例が施行せられて當時の政府が危險なりと認むる人物に對し、宮城三里四方へ撤退すべしとの急迫なる嚴命を下した。尾崎行雄君の如きもその嚴命を受けたる一人であつて、流石の學堂先生も、その急迫なる壓制命令に愕いて、此時から愕堂と稱せられたとの事である。然しながら顧みて今日の大正時代を觀るならば、矢張此封建的壓制の思想が殘つて居る。卽ち大正九年十二月に同じ事を繰返して居る。昨年十二月東京の或る所で催ふされた、社會主義者の會合に於て、演説者が單に諸君と言ふた計りで、臨監の警官から直ちに中止を命ぜられた、又朝鮮に不逞鮮人と云ふ言葉が出來て居る、是れは鮮人が或る場所の會合に於て、萬歳を唱へただけて、斯く不逞の二字を冠せられ、その處分を受けたと云ふ事である。是等は實に政府當局者の不法の行爲、不當の處置であつて壓制横暴の發露であると言はれても、之を打消す事が出來ぬと思ふのである。

## ○唯だ一つ信書の自由○

又此頃政府が思想政策とか、思想取締とか申すのであるが、甚だ解せない事と思ふ。ガリレオが最初世界が圓いと申した時や、コペニカスが地球が動くと云ふ説を立てた際は、何れもその當時の異端説であり、過激思想であつたが、後世に至つて、それが眞理である事が一般に周知せらるゝ様になつたのである。吾人は社會主義その他の過激思想の内にも立派な眞理のある事を知らねばならぬ。

第二の言論問題は、理想としては別問題であるが、現實の問題として考ふるならば、我國では法律の範圍内に於て行はるゝのである。卽ち文書の方は出版法、口頭の方は治安警察法で縛られてゐる。譬へば朝憲を紊亂するとか、安寧秩序を害する者は、處罰を受けるのである。そして治安警察法では、警官が中止の理由を示さずして、中止する權能を有して居るのである。

文書の自由と云ふ事に就ては、唯一つの執るべき方法がある。それは何であるかと云ふならば、その文書を封書にして發送する事である。若し吾々が己れの思ふ事や、信ずる事を文書に記して、親展の封書となし、友人なり知己なりに送るならば、憲法の保障に依つて信書の秘密を犯さるゝ事がないから、何等自由の制限と束縛を受ける事はないのである。そして普通の人が信書の秘密を犯せば、勿論相當の刑罰があり、若し郵便官署の役人が犯せば、一層罪が重いのである。それは兎に角として、現下我國に自由と公明と、愛の政治の行はるゝ爲めに、是等の出版法や治安警察法の改正を必要とする。此不當なる制度あるがために、若き日本は充分なる發達を遂ぐる事が出來ぬのであるから、是非共改正せねばならぬ目下政府に於ても改正の議があると云ふ事であるが、是れは誠に祝すべき事柄である。

## ○文藝復興の極致○

英國では千二百十五年の大憲章に明文はないけれども、言論や文書を亂用すれば刑罰がある。卽ち他人の名譽を毀損す

る事や、内亂を起す事や、惡德を敎唆する事は、皆それ相應に罰せらるゝのである。又米國の憲法には、各州の法律で自由を制限しても無效である事になつて居る。佛國も自由ではあるが、多少の制限がある。但しその所罰に對し、行政訴訟を提起し得る途が開かれてある。日本には此行政訴訟の途がない。私は思ふに、政府が出版法及び治安警察法を改正するならば、處罰すべき事項は是れ〳〵と云ふ風に、列擧主義を採る事にしたい。そして其の法文の解釋に就ては、警察官の御厄介になるが如き事なく、裁判所に陪審制度を採用して、その裁判所の解釋に依る事にしたい。そうするならば國家に正しき道が行はれ、國民を幸福に導く事が出來ると信ずるのである。

若し妄りに言論思想を制限し壓迫するならば、國運の進展を期する事が出來ぬのみならず、國民が第一に自暴自棄となり、第二に色々なる祕密が行はれて、爲めに過激思想を釀成する樣の事に成り行くのである。そして第三に爆發と云ふ順序になる。林子平は六無齋と號して『親もなし妻なし子なし版木なし金もなければ死にたくもなし』と云ふ有名な歌を讀んだが、此子平の如きも、德川時代に於て非常なる出版上の壓制を受けて、版木を沒收せられたので、誠に同情すべき悲慘事である。露國には青年の目と耳を蔽ふて、言論思想の自由なき國家となしたるため、今回の大革命を惹起したのである。

それ故思想及び言論の自由ある所には野に鳥の飛ぶ如く、野原に花の咲く如く自由、快活、和樂の春があるのであり、そこに文藝復興の極致が、深く根ざして居るのである。吾々御互は此意義ある思想言論の自由の爲に、大に奮勵努力せねばならぬ。(文責記者)

## 勘定不仕拂の婦人問題

=治警問題も上院で握り潰し=

兎に角今度の議會ほど婦人問題が多く現はれ、眞面目に取扱はれたことは、例がないといつてもよろしい、ですから婦人傍聽も連日滿員といふ工合でありました、殊に女學生を多く見受たことは若い婦人が政治に

**目覺め** 行く現象として注目に價するものであつたと言はねばなりません、現に廿四日の如きは後一日を餘す議場の婦人席は二つ乍らギツシリといふレコードを作つてゐました、此議會に現はれた婦人問題が何の位程度に取扱はれたか總勘定をして見るも面白い事と思はれます、先づ平塚、市川などいふ新婦人が懸命に奔走してやつと

**衆議院** を通過した治安警察法の第五條中の改正即ち婦人の政談主催者となり得ること、政談の傍聽を許すこと等含む案は貴族院へ廻附されて何うやら行惱んで仕舞ひました。川村警保局長なども『何うやら握りつぶしになる樣子だ』と悲觀說を述べられましたが、事實此の

**委員會** は一、二回開催した切りて、委員會を開かず流會を續けて今議會は貴族院通過は致しまんでした。仲々頑迷な上院の人や閥族やを動かすことは至難なことです、それから四川女史などの節酒案は遂に建議案として議會に現はれるの

**機會を** 失して請願委員會だけに提出され本物とはならなかつたし、婦人參政權案も請願したゞけて論評はなかつた樣です、恁麼次第で婦人界に政治的刺戟を與へた效果はありましたが實質的には成果を認めなかつた樣です。然し私も過渡期の現象で、軈ては成果を收むべき日も遠くはなからうと存じます。

# 古新聞の記事より

群馬　小川傳三郎

此の頃行李の掃除をした所、其の中より次の様な粋なものが目に止つた。讀下して見ると余りのことに、呆然とするばかりであつた。更に憤然禁ずる能はざるものがあた。即ち國家の爲め默するを得ず再びここに天下に告げて、同憂の士と共に大いに戰はればならぬと思ふ。

## 男爵の御成

さてもその後鶴彦の大人、男爵大倉喜八郎の君には己が經營する製絲工場を見んものと端午の節句といふに須坂町にならせ給ふ。豫て男爵の君の御覺えいとめでたき越某となんいふ百萬長者の膽煎にて歡迎のお祭騒をぞ催しける。

この日須坂町の裝飾をと見てあれば、各戸の軒に高張提灯をつるし、四千の工女を沿道に整列せしめ、羽織袴の紳士たち六百名ほど町の入口に出迎へ、善光寺より抜りえり抜きの美形凡そ二十名、町の藝者總出にて六七臺の屋臺に三味太鼓の馬鹿ばやし、六時の御着といふに四時頃より町はざわめき立ち、五時には煙花の音も勇ましく、全町の民は稼業を外にして男爵の君のお成りを拜まばやと犇めく様、國家の大事も斯くばかりかはと思はれける。

やがて赤星知事閣下自動車にて先導を承り、續いて須坂署長の陪乘にて男爵の君には御機嫌斜ならず悠揚として町民の歡迎裡に越某の館に入らせ給ふ。

夜に入りては四千の工女手に手に提灯を掲げ、造り物、藝者の屋臺などを練り歩かしめて男爵の君の御酒宴中なる越某の館を一廻りせしめ、十二時頃まで町民は狂ひ喜び、町の若者連はこの時よとばかりに豫て目を付け居たる工女を彼方の山裾此方の野原に誘き出して落花狼藉のていたらく、好色の君の歡迎とやらに、相應の振舞といはんも淺ましく、お役所、學校に至るまでさながら休業の有りさま、絹絲暴落の痛手にて凋落の慘をとどめし此町も、この夜ばかりは酒謌亂舞の歡樂境を現じぬ。

こゝより一里を隔つる米子村にては、前夜五十戸全燒の大火ありて火元は大倉經營の製材場と傳へられ、寢ぬるに家なく、喰ふに食なく、陛下の赤子五六百の慘狀は目も當てられず、心あるもの同情の涙を流さぬはなきに、知事、郡長、署長等は民の慘苦を外に見て、一富豪の金力の前にひれ伏し、天下の公道を我物顔に、可憐の工女に重荷を負はせ、八千金の歡迎費をむざ〳〵と使ひ棄てたる馬鹿騒ぎ後の世の語り草にまで貴き紙上を借りて廣く天下に告げまゐらす。

吾人は短かき此の文を讀みて、更に憂國の情を新にすると共に、かつて萬朝報が用ゐたる官力濫養の語を偲び、故田中正造翁が其の友人に與へた、人民法律を守り政府之れを毀たば如何　の語の痛烈剴切なるを偲ぶものである。

吾人は今更に大倉男爵の如きに数ふるの暇なく、又た彼れを責むる程の愚を學ばない。然れども任に地方の牧民にあり、職を人民保護に奉ずるものの——故意の——怠慢は徒らに之れを葬るを得ないのである。

斯くの如くして富豪、權者の横暴を助長せしめ、忠良なる陛下の赤子を驅りて、過激の思想を抱かしむるものは果して何人の責任であるか。



Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

# 上海の廢娼運動と邦人

## ——遙かに祖國有識者に訴ふ——

於上海　小原榮次郎

日本から見れば植民地の如き感ある當上海は東洋の大市場として現に三十六ケ國の人間が集合して居る上に各國人は治外法權に依つて各自國の法律に支配されて居るため、司法警察等種々不便もあり、土地柄とて暗黑面も多いのてある。

然るに數年前より在留外國人有志（殊に宣敎師）に依つて『道德向進團』なる團體が組織されて、上海の廓清に付き實地踏查の結果は公娼の全廢を第一の緊急事として立案し、終に上海市參事會上海共同居留地立法機關を通過して警察と道德向進團とは協同して娼妓廢止案を立てた、先づ公娼は今後絕對許可せぬ事、現在營業者は毎年二回抽籤に依り廢業せしめる事（第一回は昨年末執行八八四軒中より一七四廢業）私娼は極力撲滅を計る事等として、道德向進團に毎月二三回の會合をなして實地踏查をして其結果を警察に取締らして居るが、上海花柳界の中心地たる四馬路茶館に出て客を引きたる娼妓も愈々追ひ拂はれ、其他學校附近の營業者は皆移轉させられつゝあるのてある、されば今や娼業取締りは上海に刺激されて各地に其運動が始まりつゝあるは快心の事てあるが、其れよりも上海警察が娼妓取締規則に娼妓藝妓の區別をせず一律に見做し同鑑札規則を適用して居る事は日本の爲政者及先覺者の注意を要する（支那にも事實上は娼、藝、の區別あり）

其規則の大要は鑑札の有効期は半ケ年宛にする。

○娼家て酒、阿片の販賣を禁止する事

○娼賣家に子供は置けぬ事

○娼妓十人以上一軒に居るを許可せず

○職務中の巡査、衛生員、鑑札調、收稅人の自由に屋内に入るを得

○娼妓を無料に留置く事を禁ず

等て娼家に於て酒類の販賣を禁じ、子供の同居を禁じ一軒十人以上を許可せぬ等は稍積極的意思から出た取締りてあるが、更に娼業主に對しての申渡しには、警察所在地、婦人救濟所、自由廢業所々在地、病院所在地（五六ケ所）を明細に印刷して、娼妓は此所へ來れば適當の保護が與へられる、又病氣は無代て治療するから來れと丁寧に附加したものを娼妓の常に見易き所へ揭出して置く義務がある事になつて居り、道德向進團員は其等が實行されつゝありや否やを見て歩くのてある

斯の如き注意と施設と規則を以て娼妓の救濟をするのみならず、殘四ケ年中に公娼全廢の第一步を確實に踏出しつゝあるのてある。

然るに上海在留の日本人は如何と言ふに、邦人女郎屋は居留地外に在つて此の取締法規を免がれ居り、一方藝妓は表向き淫賣業となり居らざるため、居留地に在つて所謂官吏紳士紳商を對手に娼賣を公然と營業しつゝあつて、何等の取締法も講ぜられて居ないため、四年後には娼業を公然とするは日本人のみとなる次第てある。

先年道德向進團成立するや、當地邦字新聞は公娼廢止に關する意見を各方面から集て揭載したが、邦人は殆んど全部（意見發表者）が公娼廢止の愚を笑ひ、或は机上の空論なりとしたのみてなく、事實上娼賣發展を助くる樣にして、今日ては二萬人足らずの在留邦人中娼妓酌婦は四百七十六人、女郎屋料理屋（藝妓を置く）二十五軒て、一ケ年の遊興費は百五十萬弗と算されて居るので、在留邦人の努力し結果は大部分是に消費されて、幾多の弊害の源をなして居るのてあるが、娼業主人は、居留民團の委員となり、酒屋は行政委員に擧げられて居る現情てある。

上海公共居留地としては公娼廢止を着々と實行中てあるに其中に在る我々日本人は是に對し無關心てある數に於いては諸外國中の首位て三十餘國の外人全部より日本人の方が遙かに多く在住し、世界の五大國、東洋の指導者たる日本人も、社會改良、道德的施設に對しては、當上海の如き各國人共同生活者に於ては、前述の如くハツキリして居るのてある。

是れは上海在留邦人が低級てあるとのみは決して斷言出來まい。一衣帶水の祖國の公娼に對する實際が、斯の如き國際的大恥を公然に曝露する最大原因てあると私は思ふ。

廓清會の努力は大いに多とするが、願くば躍進一番主張を實際化して欲しいと、上海實情の一端を記して切に内地の諸賢に御願ひする次第てある。

# 謎の世界吉原日記（一）

前某驅黴院看護婦　田口和子

田口和子女史は先年吉原病院に看護婦として奉職せられ、親しく惱める人々に接して居られたのでしたが、當時新任の日本堤署長が娼妓に爲したる訓辭が甚だ不都合なものであつたので、女史は奮然起て娼妓達のために人權の存在を主張せんとして署長に質問を求めたのが動機となつて、同病院を辭職されたのでしたが、本文は女史が病院内に在つて凡百る壓迫と戰つて其の間に手記せられたもので、その中には實驗より得た深刻なる人生觀も述べられ、社會の實相を遺憾なく描寫されて居るのであつて、即ち一讀吉原病院の如何なるものであるかを知るを得再讀大東京の暗黑面を居ながら眼前に見ることを得べく、三讀するに至つて可憐なる人達の慟哭を聞くが如く、之れ實に女史が心血の結晶である。請ふ讀者諸氏世の改造論者達よ願くばその始實の報導に御一顧を賜らんことを。（記者）

＝大正八年＝

六月六日（土曜日）

今日は空も朗らかに晴れて何んとなく心地がよい。かれての宿望も叶つて、今日からはいよ〳〵私も吉原病院のみとりめの一人となつて往くことゝなつた。眞實に私は久しい以前から今日の日を怎麽にか望んで居たてあらう。

今まで居たところとは違つて此處吉原病院は、日の照る國の都大東京の眞ン中で、昔から花の吉原とうたはれて、一面には非常に雜沓した街てあることを想はせられ、その反面には可憐な姉妹たちが、聖帝在します都て殘酷な取扱ひを受けて居ることが偲ばれて、その對照が餘まりに極端から極端に馳つて居るので、何うかして全國で一番大きい此の廓、政治も教育も凡てが中心てある此の都の暗い此の大きな蔭が是非見たいものと希つて居つたのも何年前からてあつたか。その宿望が漸く今日遂げられて私は三千人も屬はれて居る此の日本第一、否世界隨一の大遊廓吉原の大門を廻つて、恐る〻吉原病院の玄關へ着いたのてある事務室では耳に腓胝の出來る程、諄ど〻しく奉給の安い理由に就いて御評定を聞かされたのてある。そしてその御說教が濟むと、院長迄では偉そうなお方が嚴かとお構えになつて、

『知つても居らうが、入院患者は皆あの汎りの人間たちだから、決して惡い感化を受けぬ樣に注意しなくてはいかん』

と、中〻御心切なる御達し。それからすぐに體格檢査といふことて、それにも『胸部が弱いから充分に養生をせよ』と宛ら慈父にも會つたやうにそれは御心切なこと。恐縮して引き下がると、五十路を越してお出てになるかと思はれる御年頃の婦長樣の御案内で、九人の醫員さん、四人の事務員さん、三人の藥劑師さん、十四人の看護婦さん達、二人の守衛さん、それから七人の雜仕婦さん、五人の小使さん方と、それからそれへと順〻に一人〻御紹介下さる。私はその度毎に『何卒以後宜敷く御願ひ致します』を次ぎから次ぎへと繰り返へさせられたのてある。

それから私の受持ちも、S先生の助手がはりといふので、それて先づ私も希望通りに玆に芽出度く吉原病院看護婦といふ光榮を頂くことに決定したのてある。

田舍と違つて大都會の廓のことてあるから、また何か珍らしい變つたことてもあらうかと、相變らずの私の慾から徐ろ〳〵四過の樣子を伺ふ。

廊下をバタ〳〵とだらしのない姿て步き廻はる姉妹達ち、豚のやうにゴロ〳〵と彼方の部屋にも此處の部屋にも、橫に臥て居る樣子立て膝をして煙草を燻らして語り合ふて居る話の種が、客の噂や病氣のことや、芝居や活動寫眞の役者のことてあるのは、田舍の廓も此所も少こしも異りはない。矢張り何處にも同じ樣な、慘めな姿をした姉妹達を見るのてあるが、唯だ此處は病院も大きければ、また入院して居る人の數も田舍と比べて遙かに多い。從つてその痛ましさも一しほ深刻て、一層濃い暗い大きな影に會ふた時のやうな心地がして、心竊かに悸き恰度電氣にても打たれた時の樣に私は身慄をしたのてあつた。そして此の憐れな姉妹の爲めに私は只管神にお祈りをしたのてある。

六月十日（火曜日）

二十六號室の重患者に附き添ふて居る派出看護婦のＭ子さんに食堂て出會した。此

の岡取が此所へ來た時は、いきなり私の手を取つて『まあ、田口さん貴女何うして斯麼所へ來ちやつたの……私一人きりの看護だけれど毎日嫌て々々堪まらないのよ……だつて御覧なさいよまア、多くの入院患者が暇さへあれば、部屋の内だらうが廊下であらうが、それは何處だつて一寸も遠慮なしにクルリとお脊を捲つて誰れが其處らに居らうが、其麼ことは一向平氣で局部を取り扱つたりなどするんですもの、夫れは眞實うに侮いて仕舞ふのよ。花魁なんてもう少こし綺麗て、そしてもう少こしは高尚なものだらうと思つて居たのに想像して居たのと觀るとは全く別よ。だつて客を取る人達ちなんですもの、恁麼なにひどいとは誰だつて思やしないわ。だから私此所に來た二三日といふもの、唯だ呆んやり佇立つて居てお小母さん(雜仕婦)に叱られたことが何遍あつたか知れやしないのよ』と。

御自分が始めてであるところから、その侮いたことや辛らいことを語つて『貴女も始めだらうから、氣をお着けなさいよ』といふ樣に親切に注意して下すつたＴ子さんが——

『田口さん、此の頃は私もウ大分慣れて來てよ、けれどもその代り何かしら脊中一面にお腫物が出來て仕舞つたの……。』

と、後はお聲が小さくて聞き取れぬ機、

『何うかなすつて？』とお訊きすれば、寂しさうに

『内科でお藥をつけて頂いたから、少こしは良い樣だけれど、先生のお仰るには、患者のが傳染したんですつて……慣れるにつれて自宅營業や何かのやうに御機氣樣をとる必要もなし、ほんとうに何んの氣兼ね苦勞も入らないし、却つて反對へに叱りかけておけばそれても濟むのですもの、恁麼な樂な處はありやしないわけれど、私考えると何んだか怖わくて怖わくて仕樣がないのよ』

それから／＼とお仰るのを聞いて居ると、恰ゞ純眞な心を擁つて、始めて娼妓になつた乙女達の話を聞かされて居るのと同じやうな感じがして、何んだかそら恐ろしかつたのである。まさかＴ子さんには間違はあるまい。またあつてはならないけれど、多くの人は恁ういふやうな氣分を持つ頃から、既に少こしづゝ惡い風に染み、知らず／＼次第々々に深かみへと一歩づゝ近か寄つてゆくのではあるまいかしら？

六月十三日(金曜日)

夕方電話があつたので、元と居た駒込病院へ用達しに行つての歸り途、眞門で電車を降りて、千束町の大通りから『ぬけられます京町』と書いてある電燈の下を、物好きな私は廓のありさまの見たさに近か道を辿つたのである。

何んの祝があつたのか知らないけれど、高かいお錢で呑んだお酒に祟られて、溝ッ端に倒れて苦しんでお出ての御仁がある。中にはそれほど醉つては居ないやうだがと思はれる人て、態々人の交通を邪魔をして、喜こんで得意になつて居る人もある。

また立派な風采の紳士が、學生らしい人とお互に肩に手を掛け脩り合つて、聞くに耐えないやうな極めて野卑な唄を、御當人達はさも自慢らしく、そして平氣で大聲に、恰度夏場の蟬のやうに怒鳴つて歩いてゐる人もある。そうかと思へば終日汗みどろになつて働いたらしい職工服の三四人連れが、まだ家へは歸らずの直行であらふ汗染みた顏て、

『ちよいと、あさんや浮は氣しちや嫌やよ！』

『あらまそう……』

なんて、交番の前も何ら頓着なく、お互に肩を打ち合つたり、色々の所作をして後生大事に彼の輕[illegible]な枯木に花へくつ付けたやうな文句の取次販賣をして騒々しく嬌聲を放つて、蛙のやうにガヤ／＼歩いてゆく人もある。

廓の中には電燈は燦然と輝いて、昔しながらの不夜城である。そして餘所ならば『安眠妨害』といふ貼札に高々と揭げられるところを、此所ばかりは何時になつても放歌の途絶えて居る間はない。そしてその渦には逞ましい勞働者も、外では一端しの紳士も、將來を囑目されて居る學生も、我利々々の商人も皆一様に、煮え湯を呑まされたり、骨まで噛ぢられたり、油鍋て浴かされたり、相手の匙加減で好き勝手によいやうに手盛されて居るのである。

不景氣——物價騰貴、生活難、增俸運動——斯麼な風は一體何處に吹いて居るのだらうと思はれるやう。政府もこんな皮肉な制度を何時までもおくといふことは、何んといふ惡戯であらうか。そして一面には何も罪のない多くの乙女を苛め、他面には二代目三代目の石川五右衛門や、色々のものを仕立てゝゆくのだから全く氣が知れない。

六月十五日、日曜日)

此の病院に來てからもう十日ばかりは過ぎた。何か話もがなと思ふがまゝに、二三の妓に語り合つて見たが、田舍のやうに容易くは馴染まない。それはかりか『横の物を縱に一つするではなし、病院にゐへ入院しなければ恁麼良い商賣はありやしませんよ、果報は寢て待てと謂ひますがたゞゴロゴロして居れば、頼みもしないに先きから金を持つて態々足を運んで來て、唄つて騒いで日を送りや良いんですもの…それて昔の樣に出てお行儀して居なくつてもよし、眞實うに氣樂なんですもの、それが病院に來ると第一喰ひ物が不味くて大びらに騒ぐことも出來ないしほんとに嫌なことですよ』と自分達の恐ろしい病氣のことなど知らぬ樣な風で、申し合せた樣な應へを受けて餘りにあッ氣ないのに落膽りした。

『开うして貴女方が日毎夜毎に樂しんで居る反面にはどんなに澤山の人が困つたり泣いたりして居ることを想つて見たことはない？』と聞けば、

『そりやありますとも、私等が恁麼商賣に這入る前には矢張り泣いたり惱んだりしたのてす。若し彼んな女がなけりや父の放蕩も止まうにと子供心に考えたこともありましたよ、そして今にその仇を取つてやると思つたけれど、自分がなつて見ると商賣上仕樣がありませんよ、おかみだつて娼を作れよと公娼の鑑札を與れてるんですもの、人の困るのなお察したり、考えて居た日には半時だつて過ぐせやしませんからねえ、始めつからてんで考えやしません……』



Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

# ○能代支部の奮鬪

秋田縣能代　淺野吉十郎

拜啓　去る三月十三日當地支部理事會を開催致候理事會の協議の結果、今春適當の時期に於て本部の應援を得候て支部大會を開催致し大々的に活動致すことに決定致候。就いては講演者は本部に於て何分の御骨折りに預り度く可然方々に御依囑被下樣御願申上候。

猶ほ當地に於ては、來る四月中旬を以て町會議員の改選期に相當致居り候處、其の節遊廓側より某々廓營業者の出馬を見ることに決定致候間、斯くては實に社會風敎上面白からざることにもあり、由々敷事件と存候に付き當支部は大いに彼等と戰ひ、如何にもして彼等を屠ふるべく協議致し、既に新聞紙にて輿論の喚起に努め申候。

然るに彼等に於ても時の非なるを想ふてか、將た亦廓清會の活動に對して恐れをなしたるものか、俄かにその態度を一變し、從來の計畫を中止する樣に相成り即ち我等同志の志望の儘に遂げられたるは洵に痛快事に御座候。從つて當支部は、今後一層の努力を風敎問題の爲めに盡す考へに御座候。依って此の機に際し本部の深甚なる後援を得て益々猛進致度存候

また、廓清會支部を始め七團體の努力の結果愈々當地に能代會館竣成致し候ことを此の機會に於て本部に御報告申上候。

此の會館は能代港町の勞働者及び靑年諸君啓發のために利用せらるべき機關に有之候、之れ實に勞働者及び靑年にして動もすれば遊蕩に墮するもののあるは甚だ痛嘆の至りにして、一方之れを救濟し、他面彼等を精神的に眞に人間としての自覺を促して、俱に相携えて社會風敎の廓淸に從ひ度く、此の目的よりしてその機關として能代會館は産れたるものに有之候。而して我が廓清會支部理事松村一也氏は、此の擧に際して殊に熱誠なる努力を致され、その所有せらるる建物（時價一萬圓）を提供せられたる次第に御座候。

猶ほ當支部としても今回の此の擧に對しては金百圓を寄贈致し、上述の七團體の中心團體として活動致中候

先づは當支部近況御報告まで如斯に御座候

# 悪業の上に詐偽利得

（横須賀署悪樓主に極刑を下す<br>姓名の上に現れたる酒といふ字…<br>樓主は酒詰ハツ・遊客は酒上醞造）

廓清會員　木藤冷劍

横濱貿易紙の報ずる所によれば當年末に差迫り新年を迎ふるに着用すべき衣物を買はんとて、妾君と共に貯金百四十五圓を引出して途中氣が浮き出し、費消し盡せるを擧動不審と睨んだ横須賀署にては樓主酒詰ハツといへる横須賀柏木田廓朝日樓といふ、廓内切つての暴利屋を取調べし所、勘定書には驚くべし一人の遊客なるに、牛鍋百一人前天井四十七人前といふ法外な請求に、褌衣の損料三圓五十錢、火鉢醬油代五拾錢、砂糖二十錢などと勝手に書き列べ、尚蠟燭代五十錢、其他無形の勘定書を提出せしより、係官も呆れ返りて取敢ず縣令により拘留廿九日に處し、尚詐僞取財によりて起訴し、將來を戒飭するの意味に於て營業停止を命ずる方針の由なるが、かゝる制裁を受けし者は廓内にて初めてなりといふ。

右に就て見るに、樓主は酒詰ハツといひ、遊客は酒上醞造といふ者なるが、如何に酒の上とは云いながら、折角の衣を買はんとして引出した貯金は、一夜の夢と化し暴亡八の姿に暴利せられてしまつたとは、如何に酒の上とは云い馬鹿な事をしたものである。其につけても横須賀警察署が、かゝる暴利漢に對し制裁を加えし事は、近事の快事と云ふべくドシ／＼かゝる暴利漢に對しては制裁あらん事を切に望む次第である。

# ◉私の觀た朝鮮半島

於鹿兒島　有馬純雄

御無沙汰致しました。昨年七、八月は東京方面に參つて居りまして、九月歸省、同月下旬から一寸朝鮮を見せて頂きました。

朝鮮は偉大な國民性を有して居ります。到底も徹底的な運動には驚かざるを得ません。

またヌウボウの齋藤に水野の內助者の働きの功果もあるに違ひありませんが、とても／＼追つ付くものではありません。當然自治を許す筈の機運が滿ちて居ります。一日も早く此の內閣を齋藤に讓してキアのない內に朝鮮より歸したいものです。

朝鮮には野田翁に內田良平君でも政務總監にしてやつたら（或は外交顧問に）如何かと思ひます。



Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

# 編輯の後

■我が國の現在の狀態は、總べての點に行き詰まつて居る。獨り政局が行き詰まつて居るばかりではなく思想問題も社會問題も悉く何等かの轉換期を期待して居るのであつて、今度こそは原內閣が辭職するであらうといふやうな空頼みでは、怎うしても國民は承知能きないのであつて、何事も明瞭に『斯くなる』。『それに違ひない』といふところに往かねば我々は安心して枕を高くすることは到底能きないのである。即ち文相の居坐りは議會閉會後早晩政變のある前提で、中橋君を嬲り殺さず友情厚き原君のことであるから、此處の難關を切り拔けてから倶に携えて道行きを仕樣といふ方寸なのだといふ人もあるが、從來の原君の遣り口から考えても、何んだか小供を欺瞞する樣な風に採れて、眞實とは思はれない。夫れは必ず玆に心機轉換機を設けて、國民の意嚮を向け換える、即ち攻太鼓の鳴りを中止さす樣な策は當然採るだらう。それには若し今議會が此の儘どうかかうか通り越せれば次の議會の始めには、紫の包みを敬しく捧戴して來はしないだらうか。それが總辭職よりもより可能性があるやうだ。若し开麼なことが實現する機會があつたなら、その時こそ國民は皷を鳴らして、選擧界の廓淸を促さねばならぬと同時に、是々非々他主他律主義の七面鳥議員は一切御免を蒙るやうにしなければならぬ。开うして先づ眞の代表者を選んで國家の重要機關から順を追ふて改造してゆかねばならぬ。

■小供に村正の玩具を與えて自らの軀を誤つやうなことは將來は誡めなければならない。小供に村正を持たしても何んの利益がないばかりでなく、小供の時代から殺伐になつては、それでは完全に成育する見込みは先づ立たない。而して假令成長しても、殺氣を帶びた人間を誰が交際して吳れ樣に、煎じ詰めて考えて見ると矢張り小供に村正を持たすことは結構小供の爲めに宜敷くないのであるから、同じ持たす玩具も寧ろ科學的なものを與えた方が、その子供の將來に何れ丈けよいか知れない。勿論國家の政治だつて理窟に二つはない瘦せ衰へた軀だに大小を差し込んで見ても重い許りで何の利益もないのである。

■例の鈴辨殺で有名になつた山田憲の死刑は愈々時間の問題となつて、絞首臺の露となつて消え果ることは確定した。开處で私は靈魂實在說を眞實なるものとしての假定のもとに、彼が死刑になつた後彼の靈魂は何處に行くかその行衛に就いて考えて見た。

處で彼の靈魂は言ふまでもなく宇宙の何處かに存在するのであるが、唯だ漂々として雲の間に浮動して居たり何處にも寄り道をしないで月の世界へ直行するものとは何うしても考えられない。若し月の世界への道を辿るにしても必ず寄らねば氣の濟まぬ所があるだらうと思はれる。或は月の世界よりも其の地に永久に逗留することを彼の靈魂は欲するかも知れない。その土地とは何處であるか？それは愛人の傍でなくてはならぬ。即ち沼津であるべきが當然だと思はれる。

■彼は犬殺が犬を殺す樣な態度で鈴辨を撲り殺して仕舞つた。それが爲めに彼は死刑を受け愛人にも去られて仕舞つた。あの事件の發生する前までは理解し合ひ互に戀愛に依つて結ばれた夫婦であつたかも知れないが、彼の事を區劃として全く離れて仕舞ひ、今度殊更らに幽明境を異にすることゝなつた。

鈴辨は米の買占めを盛んにやつて我々の生活を尠なからず脅威した、山憲は彼を撲り殺した。而してその代償として只だ一箇づゝかない生命と愛人を失つたのである。殺人は勿論宜敷くない。從つて法律が彼を處刑したのは當然であるから、それに對して兎角論評するのではないが、只だ私は鈴辨の如き獰惡なる行爲者もその爲す所が消極的なるが爲めに、此れを法律は何等追窮し得ないといふのは甚だ不都合なことであると思ふ。それに反して山田憲はその行爲が積極的であつたが爲めに、貴重なる二つのものを奪はれなければならなかつたといふことは、國家の制度も玆に於てか甚だ片手落ちであると思ふ。

■山田憲が生命を失ふことは、失ふべくして失ふのであるが、それが爲めに愛人をも失はねばならぬといふのは餘りに負擔が重くはないであらうか。彼が愛人を眞に愛してその愛人の將來の爲めに、若し彼自身から離緣をしたならば、何の問題も起らないのであるが、彼の事件の發生するや憤然として彼の愛人ツギ子が藤間家へ歸つたといふ事は、法律上からは離緣なし得るのであるから、或は當然の結果であるかも知れないが妻の態度としては反對に不都合だと私は考える。ツギ子の腹の中には既に兩人の愛の結晶をさへ抱いて居るに係はらず、斯くの如き行動をしたといふことは、眞に彼が夫に對して愛を持つて居たものであつたか何うかと云ふ事が疑はれる。

■若しツギ子が全然憲に對して愛がなかつたとするならば、それは憲を欺き憲の全部を蹂躙したものである。況して其の結晶たる子供を分娩するや、それを憲の實家に送つたといふことは、離緣したのであるから法律上その子は當然憲の實家に引き取らるべきではあるが母子の愛情として容易にそれが忍ばるべきものではない筈だ。然るにツギ子に於ては極めて簡單に解決されたと謂ふことは一面に於てはツギ子が如何に冷血な人であるか、亦彼が憲に對して現在何の執着も持たないばかりでなく、過去に於ても絕對に愛のなかつたことを尤も雄辯に物語る證據ではあるまいか。若しツギ子が眞に情の人であり、愛を理解した人であつたなら、恁麼態度は怎うしても採れなかつた筈である。それは古るい道德觀からも、また新らしい道德觀からも當然歸納する結果であると私は信ずる。

■夫れ故私は彼に對する憲の愛の餘燼は、反對に怨念となつて往くかは別問題として憲の靈魂は怎うしても沼津に住るツギ子の許に離らずには居らぬだらうと思ふのである。（淸矣）

大正十年四月一日印刷　（每月一回十日發行）
大正十年四月一日發行　（一部定價金二十錢）
編輯兼發行人　神田區今川小路一丁目三番地　伊藤秀吉
印刷人　本郷區眞砂町三十六番地　小笠原楳芳
印刷所　本郷區眞砂町三十六番地　日東印刷株式會社
發行所　神田區表猿樂町十番地　郭濟會發行所
電話神田四〇二〇番
振替東京二七〇七二番

●御注文の際は必ず雑誌『廓清』による旨を申添を乞ふ●


# 酒きらいになる藥

## 禁酒丸

一週分　一圓五十錢
二週分　二圓八十錢
三週分　四　圓

どんな酒煙草のみでも容易なく心からきらいになる。
郵券二錢送れば說明書及大澤博士其他名士の

禁酒禁煙論進呈

禁煙液
## 煙草きらいになる藥

金壹圓　金貳圓　金參圓

本舗　大阪靱南通二丁目　森田商店
電話土佐堀二六〇二番
振替大阪二二壹二六番



# 產婦人科小兒科

女醫　吉岡彌生
富山改め

△院長診察　宅診午前　往診午後
△醫員診察　午後

產室及病室の設けあり隨時入院の需めに應ず

東京市麹町區飯田町四丁目三十一番地
## 東京至誠病院
電話番町二二五七番



新刊

侯爵　大隈重信序
博士　プリンス・マロー著
文學士　小松武治譯

# 健康と性慾

三六版百七十頁
特價五拾錢稅八錢

廓清會本部發行

●廣告主へ御用の際は必ず雜誌「廓清」による旨御申添を乞ふ●

# THE NANKOIN HOSPITAL

**Chigasaki, Komagori, Sagami. (Near Oiso)**

**UNDER THE MANAGEMENT OF**

——→Dr. K. TAKATA←——

**Within a few minutes from the Chigasaki Raiway Station**

Healthiest Situation

***FACING THE SAGAMI BAY***

**FINE SCENERY**

**Telephone: Chigasaki No. 2.**

副長（新任）　醫學士　岡本[illegible]雄

診察毎朝（但祭日及日曜の他）

院長　診察、月、木、金午前及木午後六時

林、峯間兩副長は目下當院に在勤

東京三番町三十番地（市ケ谷見附上）

電話九段（六六二番 / 六六三番）　東洋內科醫院

院長　醫學博士　高田畊安

電話ちがさき二番　南湖院

相模國茅ケ崎海濱（從停車場半里）

河野、高橋兩副長は目下當院に在勤

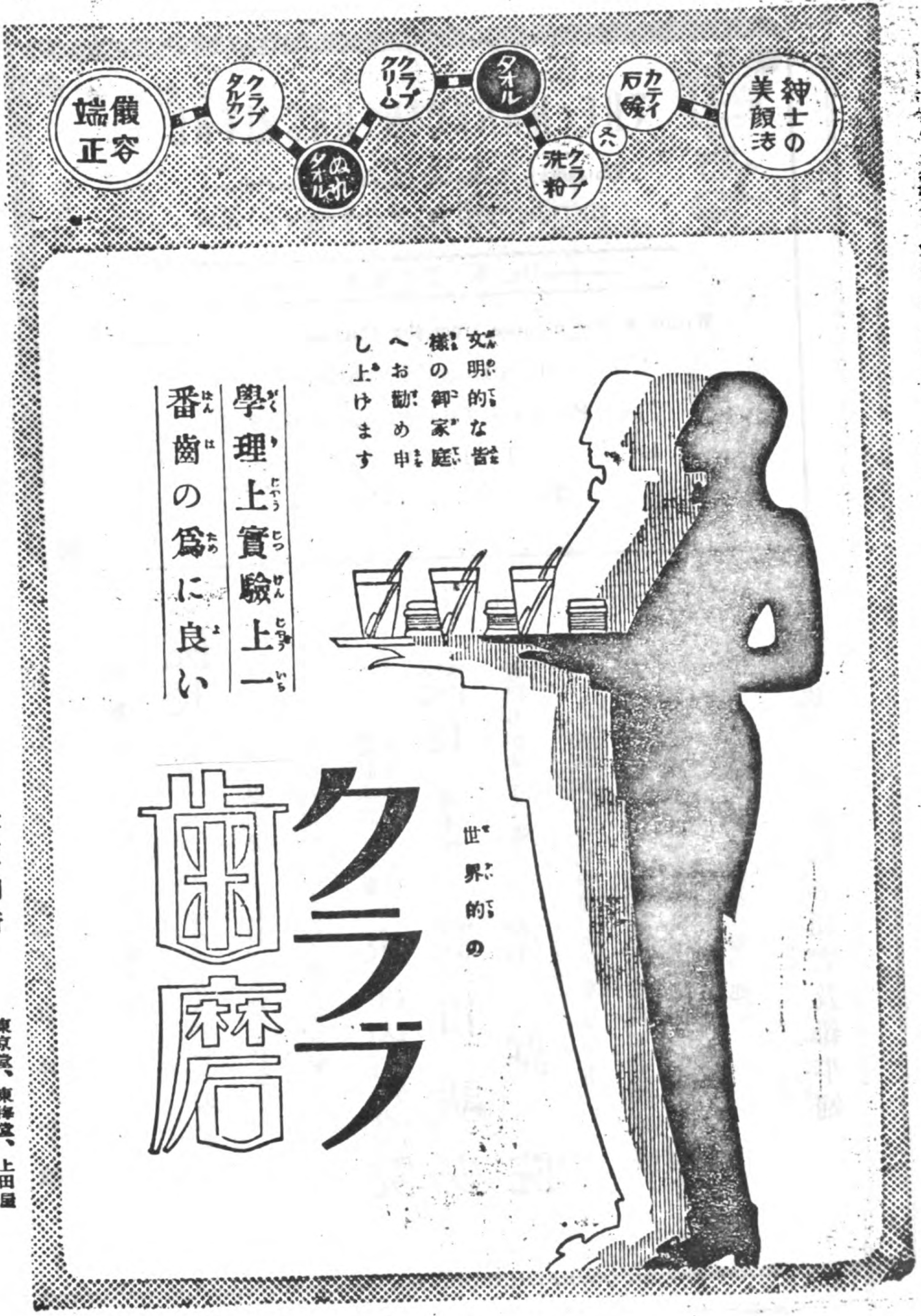
院長診察土曜日午後　入院診後應需

診察毎日午後　但祭日及日曜の他

◎募集——看護婦志願者及雜事婦

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

（大正七年十一月一日第三種郵便物認可）（大正十年四月一日印刷納本）（毎月一回十日發行）




大賣捌所
東京堂、東海堂、上田屋、警醒社、北隆館、文明堂

定價一冊金二十錢

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY